



食でつながる 〈おせっかい〉 ネットワーク

フードサポート活動報告 2020 – 24



認定NPO法人
豊島子ども
WAKUWAKU
ネットワーク

はじめに

この報告書は、2020年春から2024年に東京都豊島区で広がったフードサポートの取り組みの記録です。新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大の影響で不安が広がるなか、「心配な家庭の子どもに食べ物を届けたい」というシンプルな思いで始まったフードサポートは、地域ボランティアや行政、地元企業など、多くの方の参加を得て広がりました。食べ物を配ることで地域住民の顔と顔がつながり、地域共生のインフラを生み出していきました。

また、フードサポートを起点に、活動のなかで見えてきた課題を解決するための新たなチャレンジ、関わる人の輪を広げる取り組みにも展開していきました。食べ物は、気になる家庭とつながるためのパワーアイテムであるとともに、地域づくりのパワーアイテムであるともいえるでしょう。

本報告書は、4年間の活動が終了した直後の2024年4月に、認定NPO法人「豊島子どもWAKUWAKUネットワーク」のスタッフに対して行った聞き取り、フードサポートの拠点リーダーによる座談会、そして活動期間中に作成された報告書等をもとに活動を記録したものです。

食料品を届ける支援活動から、共に生きる地域づくりに発展させてきた豊島区での取り組みがどのようにして可能になったのか、次のような構成で報告します。

フードサポートの下地となった前史を第1章で紹介します。第2章から第4章ではフードサポートの取り組みについて、展開過程、支援を必要とする家庭とつながる方法、食料品等の確保とそれを届ける多様な担い手、官民連携、企業との連携などについて時期を追って記録しました。フードサポートの基幹部分を担った拠点リーダーによる座談会の記録を第5章に収録。

また、フードサポートからさまざまな取り組みが生まれたことも注目すべきポイントで、第6章で、最後にフードサポートが生み出した地域共生のインフラ形成の見どころを簡潔に紹介します。

本報告書を手に取られた方の地域での実践の手がかりになれば幸いです。

執筆 小田川 華子

東京都立大学人文社会学部客員研究員、博士(社会福祉学)

食でつながる〈おせっかい〉ネットワーク

フードサポート活動報告 2020-24 *もくじ

はじめに

第1章 フードサポート前史 ----- 3

◇「としまパントリーピックアップ」報告

第2章 「としまフードサポートプロジェクト」の立ち上げ ----- 6

◇フード&ランチサポート活動

第3章 官民協働によるフードサポート ----- 10

「ライス！ナイス！プロジェクト」

「地域がつながるプロジェクト」

第4章 プロジェクトの広がりと基盤強化 ----- 14

● 2021年度：フードサポートの広がり /

「ライス！ナイス！プロジェクト」（2年目）

● 2022-23年度：〈おせっかえる活動〉 /

飲食店による支援の輪の広がり /

「子どものセーフガーディング」のための行動規範の策定

第5章 拠点リーダーふりかえり座談会 ----- 20

第6章 気づき・つながりから生まれた取り組み ----- 30

小円卓会議 / 「としまこども団」・子ども服マーケット /

WAKUWAKU すまいサポート / WAKUWAKU しごとサポート / 無料パソコン教室 /

就労体験プログラム / 中学校内カフェ「にしまるーむ」

第7章 フードサポートが生み出した地域共生のインフラ ----- 32

◇自治体条例につなげたい「子どもの貧困対策」

おわりに ----- 34

◇寄付団体一覧 ----- 35

〈資料〉

◆「としまフードサポートプロジェクト」WAKUWAKU コロナ禍での取り組み 2020～24 36

◆フードサポート関連助成金・補助金一覧 ----- 41

◆関連資料一覧 ----- 42

◆WAKUWAKU ボランティアガイドライン ----- 43

*本文中、法人格の記載を一部略記させていただきました。



認定NPO法人

豊島子どもWAKUWAKUネットワーク

地域の子どもを地域で見守り育てるために、「子どもの貧困」をテーマに子ども支援をしている。2012年設立。プレーパーク、子ども食堂（3か所）、無料学習支援、外国ルーツの子ども交流、ホームスタート、WAKUWAKU ホーム、公立中学校内の居場所、シングルマザー交流会、不登校の親の会など活動は多岐にわたる。コロナ下では、住まいや仕事の相談、食材の提供（としまフードサポートプロジェクト）に力を入れた。おせっかいの輪を広げ、地域が網の目のようにつながっていく仕組みを構築中。



第1章 フードサポート前史

はじまりはプレーパーク

「豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク」（以下、WAKUWAKU）を設立する少し前に、「池袋本町プレーパーク」で焼き芋イベントをしたときのことです。15時過ぎに小学3年生くらいの少年がやってきましたが、すでに焼き芋はありませんでした。

少年がとてもさみしそうな顔をしていたので、代表の栗林は気になり、プレーパーク終了後、家にあった芋を持って少年の家に行きました。そのとき、家にいた少年の母親と話し、その家庭がひとり親家庭だと知りました。

そして数年後、少年の姉の受験の話になり、姉はWAKUWAKUが始めて間もない無料学習支援に来ることになりました。

「モノを届けることで、気がかりな子の親と交流できる」。このときの体験が、のちのフードサポートの着想の礎になったのでした。

経済的に苦しいひとり親家庭が多いと感じていた栗林は、米などの食料品を届けたいと思うようになりました。仲間と話し合い、「ひとり親家庭にお米を渡して、生活の困りごとなどについてインタビューしよう」という企画に発展。

それを実行に移し、まとめるプロセスで、「子どもの貧困対策推進モデル条例案」の作成につながっていました。〔P33 参照〕

「通帳残高300円」のひとり親家庭

WAKUWAKUの学習支援に来る子どものなかにMさん兄弟がいました。スタッフと話すうち、兄弟は子ども食堂にも行くようになりました。

ある日、その子ども食堂に新聞社の取材が入り、Mさん親子がインタビューを受けました。インタビューのなかで、Mさんの母親が預金通帳を見せてくれて、「月末になると残高が数百円になり、やりくりがとても大変。夏冬の休みは、子どもたちの学校給食がないため、食費がかさんでさらに大変」と話されました。



池袋本町プレーパークでの「焼き芋イベント」。見守られながら、たくさんの子どもたちが「焼き芋」を楽しみました。



池袋本町プレーパーク

▶池袋本町公園内に 2003 年オープン
運営: WAKUWAKU (豊島区委託事業)

「セカンドハーベスト」に協力依頼

「学校給食のない夏冬の休みは、食費がかさんで負担が大きい」。そんな切実な声を聞き、「ひとり親家庭に食べ物を届けよう」と呼びかけを始めました。協力をお願いしたのは、認定 NPO 法人「セカンドハーベスト・ジャパン」（以下、セカンドハーベスト）です。

セカンドハーベストとは、WAKUWAKU の発足間もないころ、ご縁ができました。ボランティアの学生から、「海を見たことがない小学生たちと、式根島（伊豆諸島）に合宿に行きたい」との提案がありました。合宿の食材費の予算がとれず、セカンドハーベストに相談したのが始まりです。その後も多大な協力をいただくきっかけとなりました。

2016 年夏、ボランティア数人で台東区のセカンドハーベストに行き、段ボール箱に食品を詰め、WAKUWAKU とつながりのあるひとり親家庭に発送しました。この取り組みを冬休みにも実施しましたが、パンなどの生もの（カビが発生するもの）、ビンもの（割れる可能性）、冷蔵品は段ボール箱に詰めることができず、もどかしい思いがありました。



フードバンクの取り組みを学ぶ

そんななか、セカンドハーベストが「フードセーフティネット (FSN 会議)」を立ち上げ、食料支援などを実施している団体が月1回集まり、情報交換をするネットワークができました。そのネットワークで、セカンドハーベスト主催のシンポジウムを企画し、アメリカのフードバンク団体の取り組みについて動画とともに紹介しました。アメリカで行われている「フードコープ」という取り組みは、大きなフードバンクから地域の拠点に食材をトラックで運び、そこに地域の人が食材を取りに来るというもので、その拠点スタッフは当事者が担っていました。協働組合の仕組みをつくり、当事者同士の支え合いでフードバンクを運営しているのでした。

「としまパントリーピックアップ」始動

その仕組みを豊島区でもつくれないか。そこで、WAKUWAKU から地域食堂を運営している労働者協働組合「ワーカーズコープ・センター事業団」、無料学習支援を運営する「目白聖公会・子ども部会」に働きかけて、場所を提供してもらい、一緒にフードパントリーを実施することになりました。

配布する冷蔵品、野菜などはセカンドハーベストから提供を受けました。当初「豊島おなかいっぽいPROJECT」とネーミングしスタートしましたが、利用者から「まるで、ひとり親が子どもにおなかいっぽい食べさせていないよう、否定されているように聞こえる」

と言われたことから、名称を「としまパントリーピックアップ」に変更しました。

区の協力を得て案内拡大

支援を広げるために、豊島区子育て支援課にも協力を依頼しました。区がひとり親家庭へ現況届け資料を郵送する際、パントリーピックアップの案内を同封できないか相談したところ、合意を得られ、後援申請の手続きを経て実現しました。

区とタイアップすることで、これまで団体として関わりをもてなかつたひとり親家庭とつながりました。その後「WAKUWAKU 入学応援給付金」対象家庭にも案内し、拡大していきました。

「としまパントリーピックアップ」の運営は、場所を提供する団体、スタッフ、ひとり親のボランティア、社会福祉法人「豊島区民社会福祉協議会」(以下、社協)など多くの団体や個人で構成する「TOSHIMA TABLE」というコンソーシアムで行うようになりました。

当時のメインスタッフは、田中さん(目白聖公会)、須藤さん(東京池袋西ロータリークラブ)、内山さん(個人)、牧野さん(ワーカーズコープ)、高成田さん(ワーカーズコープ)、國井さん(IKEBUKURO TABLE)、栗林(WAKUWAKU)。

この時点で、ひとり親家庭と外国ルーツの家庭、合わせて 99 世帯を支援していました。

◆「としまパントリーピックアップ」案内チラシ



認定 NPO 法人「セカンドハーベスト・ジャパン」のパントリー：当団体は、食品ロス（フードロス）を引き取り、人々へ届ける活動を行う日本初のフードバンクです。

2018 年 7 月・8 月は、「スーパーサカガミ」、「ワーカーズコープ」、「目白聖公会」の 3 か所で開催しました。



「としまパントリーピックアップ」報告

(「豊島おなかいっぽい PROJECT」から改称)

【実施期間：2017年8月～2019年12月】

〈実施概要〉

運営：TOSHIMA TABLE、豊島子ども WAKUWAKU ネットワークによる協働事業

協力：豊島区、セカンドハーベスト・ジャパン

対象：主にひとり親世帯

活動内容：子育てに必要な「食」の支援と支援情報の提供

●個人情報保護の遵守規定をセカンドハーベストと共に ●豊島区からのチラシ配布

●食料品のパッケージ（市場価格 5000～8000円）を無料配達 ●子育て支援情報の提供

〈成果〉

●99世帯からの応募があり、お米や調味料、レトルト食品を提供。

乳幼児のいる世帯には、乳幼児向けの食品を提供した。

●うち希望した77世帯に、豊島区内の子ども支援情報を提供し、食の支援だけでなく、子育て支援にも結びつくプロジェクトとなつた。

〈子どもの年齢別世帯数〉

0歳児がいる：6

1歳から保育園児：21

小学生：43

中学生：23

高校生：17

つながる場の創出へ

●豊島区や社協、地元企業と連携し、文化・芸術活動や企業が主催するイベント、WAKUWAKUが主催するイベントなどに、対象世帯を招待するなど、人と人とのつながる場を創出できた。〈例〉東京芸術劇場でのコンサート鑑賞券提供／企業主催「焼肉パーティ」、「サンシャインシティ・バックヤードツアー＆パーティ」などに招待

●当プロジェクトの成果とそれによって生まれた「つながり」は、民間団体のアイデアを行政や他の団体とともに実施したからこそ得られた。このことは、地域住民の地域に根ざしたアイデアと、さまざまなステークホルダーの参加と協働により「地域の子どもを地域で支える仕組みを創出できる」ことを示している。



第2章 「としまフードサポートプロジェクト」の立ち上げ

公立小中学校の休校宣言

2020年の1月ころから新型コロナウイルス感染症が拡大はじめ、2月末に突如、公立小中学校の休校が宣言されました。

子どもが学校に行っている間に仕事をしていた家庭でそれまでなんとか回っていた歯車が外れ、子どもが家にいるため仕事に行けない親、子どもを家に残して気がかりなまま仕事に出なければならない親もいました。

その後、不要不急の外出自粛が求められることにより多くの飲食店が休業を余儀なくされるなど、経済活動に大きな影響が出ました。このような社会状況のなか、とくに厳しい状況に追い込まれたのは、勤務

時間を減らされたり、雇用止めになったりして、収入が減ってしまったひとり親家庭でした。

苦しい生活に追い込まれた子どもたちに食べ物を届けたい。食料支援の情報をそうした家庭に届けるには、「としまパントリーピックアップ」のように区の協力が必要で、また、民間の助成金などを得るためにも、ニーズを明確にする必要がありました。

そこで WAKUWAKU が、これまでの活動をとおしてつながりができたひとり親家庭にアンケートを実施しました。96世帯から回答があり、「子どもの世話やお金のやりくりなどに困っている」といった回答が多くみられ、食料支援のニーズがあることが明確になりました。

アンケートに寄せられた〈困りごと〉

【実施：2020年3月】



▶食費がかさみ大変です。学費など出費が多く、児童手当もなくなり、貯金を切り崩しています。

▶親が仕事で家にいないので、子どもたちの食事がカップ麺などばかりで、栄養バランスが良くなっています。

▶食費を少し削っています。生鮮食品も受け取りたいのですが、子どもたちだけで留守番をさせるのはまだ不安なので、宅配での受け取りを希望します。



▶豊島区は保育園が休園になっているので、仕事を休まざるを得ない状況です。職場でもこの状況にできる対応はないそうです。金銭的にとても不安なのですが、どこに相談したら良いかわかりません。

▶不安だらけです。仕事も休めないので自分が感染したら子どもたちはどうなるのか。考えても仕方ないのですが。1日も早く収束を願うばかりです。

▶誰も頼れる人がいない。支出がとても増えた。

としまフードサポートプロジェクト

▶ 2020年3月～

2020年3月、アンケート結果をふまえて、いくつかの団体と連携し、「としまフードサポートプロジェクト」(以下、フードサポート)の活動に向けて動き出しました。子どもたちにお米を届けるためには、いくつかの課題を同時並行でこなす必要がありました。その課題とは、①財源確保、②米の調達、③配布場所の確保、④スタッフの募集、⑤受け取る家庭への周知です。

●財源確保

まずは資金獲得のために助成金を探したところ、「赤い羽根共同募金・臨時休校中の子どもと家族を支えよう 緊急支援活動助成事業」という5万円の助成金がみつかりました。

そこで、豊島区の子ども支援民間団体の「クローバー」、「いけいけ子ども食堂」、「ミラクル」、「IKEBUKURO TABLE」に呼びかけ、WAKUWAKUを含む5団体が同じ内容で申請しました。ここで25万円の助成金を受けられ、チラシの制作や米の購入費確保に成功しました。「TOSHIMA TABLE」など、複数の団体で連携してきた経験が生きました。

●米の調達

助成金での購入のほか WAKUWAKU のメーリングリストで呼びかけて集まった米や、企業からの寄付米を3キロずつに小分けしました。

●場所の確保

米を配る地域拠点は、電車に乗らずに家の近くで受け取れるよう、区内の各所に配布場所を確保する必要がありました。また、感染予防の観点から「密」を避けるため、屋外の場所が必要でした。

まず相談したのは、青少年育成委員会の会長と民生・児童委員協議会の会長です。2人の会長とは、2019年度に2回、区内の行政、民間のさまざまな立場の方が集い意見交換する場として実施した「豊島みんなの円卓会議」〔P26 参照〕で、関係構築ができていました。「深刻な事態になっているので、食料支援をしたい。応援していただけないか……」と相談し、



毎回たくさんのお米の寄付をいただきました。

協力を確認したうえで、区内地図を広げ、一緒に場所の検討を進めていきました。

会長たちは、地域の公共的な空間やそこを管理する方々を熟知しているため、交渉を依頼しました。円卓会議で関係を築いた区議会議員らにも相談し、以下のよう拠点の確保、提供の協力を得られました。

- ・Kさん：巣鴨とげぬき地蔵通り「真性寺」に交渉
- ・Tさん：南長崎の特別養護老人ホーム「風かおる里」の軒下の借用を交渉
- ・Nさん：「池袋御嶽神社」の境内借用交渉
- ・Hさん：「区民ひろば南大塚」前の沿道使用確認
- ・Hさん：駒込駅前ロータリー周辺の確認
- ・Mさん：高松の自治会館を借りられるよう民生委員児童委員会長に交渉
- ・Kさん：子ども食堂で借りていた池袋本町の特別養護老人ホーム「ほんちょうの郷」と椎名町駅前の「金剛院」に交渉
- ・区役所：1階センタースクエア提供

●スタッフの募集

子ども食堂や学習支援実施団体、メーリングリストで参加を呼びかけました。さらに、それぞれが知り合いに参加のお願いをして、協力者を増やしていました。

●受け取る家庭への周知

周知には区の協力が必要でした。前述のアンケートで明らかになったことを資料にまとめ、区役所のひとり親支援担当課に示し、「困窮している家庭に米を配りたい」と熱意をもって話した結果、窓口に来所するひとり親世帯等にチラシを配布してもらえることになりました。

豊島区教育委員会は、区立中学校の登校日に、全生徒へチラシを配布することを決めました。提供できる食材に限りがあったため、小学生よりもたくさん食べる中学生を対象としました。

加えて、WAKUWAKU につながっているひとり親家庭にもメールにて周知しました。

このような経緯で、2020年3月は区内6か所で、



認定NPO法人

豊島子どもWAKUWAKU ネットワーク

424世帯にお米を配りました。こうして地域の人たちと思いを一つにし、4月から毎月のフードサポート活動がスタートします。

緊急事態宣言の発出

4月には緊急事態宣言の発出とともに不要不急の外出自粛が呼びかけられ、人と会うこと、話すことが制限されました。学校の休校は6月ころまで続き、子どもたちの生活リズムや食の乱れも心配されました。

飲食店をはじめとする店舗が軒並み閉店したことでの仕事が減り、収入も減ったが子どもは家にいるため支出は増えるという厳しい時期でした。

密室育児で孤立しがちな親子など、とりわけ厳しい状況に置かれている家庭をサポートしようと、これまでの個人サポートとのつながりを頼りに、お弁当配布を開始しました。

しかし、ウイルス感染の不安が社会を覆い、フードサポートでも「食べ物の手渡しは良くない」との意見が配布ボランティアから出るようになりました。一方で、孤立を強いられるつらい時期だからこそ直接会って手渡ししたいという想いの方もあり、意見が分かれました。そこで、配送か手渡しかを選べるようにして活動を継続しました。

（としまフードサポート PJT）
のべ 1634世帯に食料支援
3月から7月の間、6回にわたり配布

ランチサポートプロジェクト

▶ 2020年5月～

●お弁当を子どもたちに

そんななか社協から新たな相談がWAKUWAKUに舞い込みました。4月末、東池袋にある飲食店「炭焼道楽」「座135」のオーナーから「子どもたちにお弁当を届けられないか」と社協に電話があったのです。さっそく社協の天貝局長とそれぞれが「できること」

「足りないこと」をスピーディにつなぎ、「としまランチサポートプロジェクト」が始まりました。

●パンやお菓子の提供も

お弁当のほかにも、提供してもらえるところはないかと、地元の食品関係事業者にあたったところ、「東和パン」（板橋区）、「いけぶくろ茜の里」がパンを、生活協同組合「パルシステム東京」、「こども宅食応援団」、「全国農業協同組合連合会」からは、野菜・お菓子・牛乳の提供がありました。

●区内全域の活動へ

それまでの配布拠点は、区内に6カ所でしたが、遠すぎて取りに来れない子どもたちがいることが課題でした。子どもの生活圏内に配布拠点を置けるよう検討した結果、豊島区区民ひろば課長に交渉し、22か所から協力を得られました。

区民ひろば内の活動は、感染予防の観点からはばかられたため、建物の玄関先などを借り弁当を配布しました。

●スタッフの募集

地域の民生委員・児童委員や青少年育成委員、子ども食堂の知り合いなどに声をかけ、ボランティアを募りました。緊急事態宣言により各委員も思うように活動できない時期であったため、「子どものためなら」と喜んで協力してくださる方もいました。

このランチサポートをきっかけに、配布拠点が区民ひろばへと移行し、区内全域の活動に広がっていきました。

（としまランチサポート PJT）
947食のお弁当支援
2020年5月～6月の2か月間

フード&ランチサポート活動

食品の発送

発送を希望した世帯に向けて、米のほか、子どもでも調理できるレトルト食品などを箱詰め。

相談窓口の案内と、「TOSHIMA TABLE」からの手紙も同封し、相談ごとや支援についての問い合わせに応じました。



パントリーで受け渡し

区民ひろば 22か所と、ピックアップポイントで、人ととの接触を可能な限り避け、食料品を渡しました。

各ピックアップ拠点には、多くの地域住民がボランティアとして関わり、そのつながりがネットワークとなりました。



場所の提供と 区民ひろばとの協力

目白聖公会駐車場、金剛院蓮華堂前駐車場、池袋御嶽神社、ほんちょうの郷駐車場、風かある里前、真性寺、高三会館、としまセンタースクエアなど多くの協力をいただきました。

「区民ひろば」は区内の小学校区ごとにある地域のコミュニティ施設。子育て世帯が多く集まり、支援の場所でもある区民ひろばとの協力は、豊島区の子育て世帯を支えるうえで必要不可欠でした。



「炭焼道楽」提供の焼肉弁当のほかパン・野菜・牛乳を届けました

(関連レポートは p42 参考資料一覧で紹介しています)



第3章 官民協働によるフードサポート

ライス！ナイス！プロジェクト

▶ 2020年8～9月 / 11～12月

応援基金創設プラン

WAKUWAKUでは、子どもたちへの食料支援を継続するために、必要な資金を獲得すべく助成金申請に励んでいました。そのなかで思いついたのが、「豊島区に基金を創設してもらい、寄付を募る」というアイデアです。

このころ、政府が新型コロナウィルス感染症緊急経済対策として全国民に1人10万円の特別定額給付金を支給しましたが、年金生活の方から「自分の家計にはとくに変化はないので、10万円を子どものために使ってほしい」と寄付があり、基金の創設には良いタイミングではないかと考えました。さっそく区議会議員と意見交換し、議員から区長に提案してもらうなどの働きかけを行いました。

2020年7月、区の子育て支援課こども家庭・女性相談グループの担当者と「東京池袋西ロータリークラブ」の須藤和由さん、WAKUWAKUの栗林が面談する機会があり、区にもひとり親世帯のニーズを把握し、支援したい意向があるとわかりました。

そこで、ひとり親世帯のニーズのナンバーワンは「お米」であること、ひとり親から聞こえてくる、「運動会も修学旅行もない、外食にも行けない」といった声を伝えたところ、区の事業として精米5キロを配布する「ライス！ナイス！プロジェクト」が誕生することになりました。

財源は区が呼びかけた寄付です。「コロナに負けるな！としま医療・福祉支援寄付金」として、この時点までに集まった寄付を、子どもへの米支援と医療従事者支援に充てられることになりました。

翌年7月には、豊島区「としま子ども若者応援プロ

ジェクト」による「としま子ども若者応援基金」が創設されました。

米と食事券を配布

「ライス！ナイス！プロジェクト」の運営は、WAKUWAKUが担うことになりました。そこでまたプラスアルファを考えるのがWAKUWAKU流です。

「外食に行くことなんかとてもできない」というひとり親世帯の状況を思いやり、親子の会話が弾む外食の機会を提供できないかと考えました。

「東京豊島ライオンズクラブ」「東京池袋西ロータリークラブ」「東京豊島東ロータリークラブ」「ローヤルエンジニアリング」「ロイヤル商事」などの企業や団体から寄付を募り、豊島区の商店街連合会に登録している店舗で使える金券（商品券）を購入し、米とともに配布する段取りを整えました。金券が使える飲食店を取り出したエリアごとのお店紹介もつけました。

◆「ライス！ナイス！プロジェクト」案内チラシ



家庭への周知と新たなつながり

「ライス！ナイス！プロジェクト」は、2020年8～9月と11～12月の2回にわたり、区内22か所の区民ひろばを借りて実施することになりました。

今回は、お米と食事券を郵送するのではなく、希望者に取りに来てもらい、手渡ししてつながりをつくることにこだわりました。

対象は児童扶養手当受給世帯でお米を希望する家庭です。豊島区から該当世帯に案内を郵送し、申し込みはWAKUWAKUで受け付ける仕組みにしました。これにあたっては、取得した個人情報は当プロジェクトのみに利用するとの制約を設けたうえで、豊島区個人情報保護審議会の承認を得て進めました。夏と秋の2回の実施で、のべ約1437世帯にお米と食事券を渡しました。

このプロジェクトに参加した世帯には、任意でWAKUWAKUに登録してもらいました。これにより、それまでつながっていなかったひとり親家庭にも情報が届けられるようになりました。

折しもWAKUWAKUでは助成金を得て、2020年8月から団体の基盤強化に取り組んでおり、SalesforceやZohoを導入し、個人情報のクラウド上の管理が可能になりました。

学生による動画制作と発信

上智大学・水島宏明ゼミの協力

区民ひろばでの準備や配布の様子は、上智大学の水島宏明ゼミの学生により取材撮影されました。このころ、大学生の活動も全て中止を余儀なくされていましたため、このような時こそ学生に活動させたいとの水島先生の計らいで、数拠点に学生が配置され、地域の方にインタビューするなどし、動画がつくられました。

フードサポートの取り組みは多数の助成金を得て実施したため、それぞれに活動報告が必要でした。報告書には学生たちの記録を活かし、リアルに活動を紹介、発信することができました。

ボランティアの活躍

お米は、豊島区の姉妹都市、宮城県刈田郡七ヶ宿（しちかしゅく）町から区の施設に届けてもらい、そこからボランティアの手で、各区民ひろばへの搬入を行いました。

「東京豊島ライオンズクラブ」のボランティアや無料学習支援団体「かみとえんぴつ」のSさん、WAKUWAKUの学習支援育ちのボランティアのPさんなど大勢の協力を得て運びました。2回目からは地元企業の「ローヤルエンジニアリング」の社員のみなさんがボランティア協力をしてくれました。

また、春に実施したフードサポートの申し込みフォームに、「解雇された」などの困りごとを書いていた方に有給アルバイトスタッフとして関わってもらいました。人件費は助成金を活用しました。



姉妹都市七ヶ宿町から届いた米をトラックに運ぶボランティアのPくん。



重労働を担ってくださいました、「東京豊島ライオンズクラブ」のみなさん。多くの力を結集し実現したプロジェクトでした。





地域がつながるプロジェクト

▶ 2020年11月～2021年2月

食べ物を介した官民協働の見守り

「ライス！ナイス！プロジェクト」の活動のない月にも、フードサポートは続きました。それと並行して動き出したのが、要保護児童の見守りをしたいWAKUWAKUと豊島区がタイアップした官民協働型の「地域がつながるプロジェクト」です。このプロジェクトは、地域のなかで孤立しがちなひとり親家庭など、困難を抱える家庭のうち参加申し込みのあった家庭に対し、地域の有償ボランティア訪問員がお菓子などのプレゼントを持って訪問し、子どもや家庭の状況を把握し見守る事業です。2020年11月から2021年2月にかけて毎月1回、訪問員が担当する家庭を訪問するなどして直接プレゼントを手渡し、隣人あるいは頼りになるご近所さんとしてのつながりをつくりっていました。〔P42資料③参照〕

区からの事業委託

2020年春、自治体が民間団体と協力して行う見守り事業に国が補助金を出す「支援対象児童等見守り強化事業」を厚生労働省が打ち出したことを受け、豊島区では「豊島区支援対象児童等見守り強化事業」として事業化しました。

事業を運営するWAKUWAKUに対し、訪問員やコーディネーターの入件費およびその他の事業運営にかかる経費を、区が委託費として支払う形です。WAKUWAKUは訪問員を募集、育成し、訪問活動のコーディネート、サポートを行い、訪問員は、訪問した子どもの様子を記録して区に報告することで調査報告謝金を受け取る仕組みです。

このプロジェクトは、「豊島区支援対象児童等見守り強化事業実施要綱」にのっとり実施されました。

約300家庭が参加希望

受け取り参加を希望したのは、ひとり親家庭や外国ルーツの家庭など豊島区から紹介があった家庭と、WAKUWAKUがそれまでに支援をしてきた子どもた

ちの家庭のうち約300家庭でした。この取り組みをとおして、それまでのフードサポートではつながっていなかった家庭と新たに出会い、ボランティア訪問員を介して、顔の見えるつながりをつくることができました。

〈おせっかいさん〉の活躍

このプロジェクトの肝になったのが、地域で募集した約70名のボランティア訪問員です。

〈おせっかいさん〉とネーミングし、フードサポートの拠点リーダーに参加を呼びかけたほか、民生委員・児童委員にも参加してもらいました。

支援情報の案内

11月はレトルトパックのお惣菜、12月はクリスマスパッケージのお菓子、1月はお餅、2月は区内のお菓子屋さんのチョコレート詰め合わせのほか、支援情報も届きました。

1月は就学前の子どもがいる家庭に訪問型子育て支援事業である「ホームスタート」の案内、2月は小学校入学前の年長幼児と、高校入学を控えた中学3年生のための「WAKUWAKU入学応援給付金」の案内、外国人家庭の子どものための他団体による給付金を案内しました。

訪問による関係づくり

「食べ物のプレゼントを届ける」訪問活動をとおして、普段は警戒心から玄関のドアを開けない家庭も少しづつ開けてくれるようになりました。回を重ねるごとに、緊張がほぐれ、食べ物の話だけでなく、子どもの話、好きなことの話をしたり、子どもたちが〈おせっかいさん〉の訪問を心待ちにしてくれたエピソードが聞かれるようになりました。食べ物はこうしたつながりづくりのきっかけとして絶大な力を発揮することがわかりました。

継続

2021年度は7月から「地域がつながるプロジェクト」を開始し、8月から1月までに6回訪問活動を行い、利用世帯数は200世帯になりました。2022年度、2023年度も同様に実施しています。

◆「地域がつながるプロジェクト」案内チラシ

**地域がつながる
プロジェクト**

コロナ禍の中、如何お過ごしでしょうか。毎日の子育ては大変なことと思います。
訪問員が、ご家庭に月に1回、プレゼントをお届けします。
不審者等も出現するご時世、訪問員があお様の名前と顔を見て、外で会った時も見守れるよう
にしたいと考えています。「地域がつながるプロジェクト」ぜひご利用ください！

プレゼントの内容

11月 ご飯がすすむ 極ウマおかず など	12月 クリスマス用の 魅力的なスイーツ など	1月 お正月のおもちを 中心に…	2月 バレンタインに ちなんだ チョコレートなど
-------------------------------	----------------------------------	------------------------	-----------------------------------

【実施期間】 11月～2月、毎月1回
※訪問時にお子様に「こんにちは」と挨拶させてください。
お家でない方がいいという方は、近くの区民ひろば等で
会うことも可能です。

【本プロジェクトの対象者】
このチラシが直接届いた
豊島区に住まわれている家庭

【お申込み方法】

こちらのQRコードの申込フォーム
よりお申込みください。
<https://forms.gle/6QQhLPzv8RzAtRho6>

【お問い合わせ】
NPO法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク
〒171-0014 豊島区池袋3-5-2-21
TEL: 090-3519-3745 FAX: 03-3986-4556 Eメール: info@toshimawakuwaku.com
●実施 NPO法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク ●事業主 勝島区子育て支援課

申込み締切 11/3(火)



第4章 プロジェクトの広がりと基盤強化

2021年度

フードサポートの広がり

2020年の「ライス！ナイス！プロジェクト」が終了したあと、2021年1月以降も毎月、区民ひろばでの「としまフードサポートプロジェクト」を継続しました。

子ども連れの参加者が多かったこともあり、寄付で寄せられたおもちゃやお菓子を縁日のように並べて、子どもたちが選べるように工夫した拠点もありました。関わる人の広がりとともに、寄付で集まる品物もバリエーションが増え、3月には雑貨や生理用品、6月には化粧品の提供があり、母親たちの喜ぶ顔も見られました。

配布する食材が不足するときは、民間助成金を用いて量販店で乾麺やレトルト食品を購入したり、セカンドハーベストから提供を受けました。また、2021年6月には事務所近くの倉庫を借りることができ、保管量が拡大したことで、食材の調達と調整がしやすくなりました。

食料品の配布を前面に出しながらも、来てくれた方との対話の場にする工夫も各拠点でなされるようになり、配布場所の奥にゆっくり話せるコーナーを設けた拠点もありました。

民生委員・児童委員や主任児童委員、社協のコミュニティソーシャルワーカー(CSW)などはこの機会をとらえて、気がかりな家庭とコミュニケーションをとることができ、地域の支援活動や社協の貸付制度などを紹介できた拠点もありました。

一方で、建物の軒先しか使えない拠点では、「皆さん黙々と品物を受け取ると帰ってしまいコミュニケーションが取れない」「子どもが来ても遊べるところもなく、相談できる場所もないため、あるとよい」といった意見がありました。

リーダー育成の視点

2021年は取り組みに関わる人のすそ野が広がっただけでなく、各拠点の運営でリーダーシップをとる人も増えました。その背景に、フードサポートの振り返り会の取り組みがあります。

2021年3月に発行した『地域がつながるプロジェクト：誕生までの道のりと2020年度の活動の記録』の「第4章 地域づくりのカギ」を事務局スタッフで読み、今後は地域リーダーが育つ機会をつくりたいと話し合いました。〔P42 資料③参照〕

そのためにすべきことを検討した結果、4月から毎回のフードサポートのあと、各拠点のリーダーが以下の3項目についてレポートを共有しました。

- ①うまくいったこと、うれしかったこと
- ②改善したいこと
- ③学び・気づき

また、当日の夜に拠点リーダーがオンラインで「振り返り会議」を実施し、思いを分かち合ったり、改善のための工夫について話し合う時間をもちました。

後日開催した座談会で、この「振り返りレポートと会議への参加は負担が大きかった」との声が聞かれましたが、思いや改善に向けた工夫の共有は、この取り組みを自分たちの確かなものにするプロセスになっていきました。

シングルマザースタッフの活躍

フードサポート申込時に利用者に書いてもらう〈最近の困りごと〉のなかに、「コロナで失業した」という声が、2020年春ごろから寄せられるようになりました。

コロナは失業・減収という経済的ダメージのほかに、ワンルームの狭小住宅で自宅待機という環境で、親子がストレス状態になっていることや、リモートワークもままならないシングルマザー家庭の生活形態が浮き彫りになりました。

少しでも家計の足しになればと、失業したシングルマザーの方々にフードサポート準備作業のアルバイトを

お願いしました。このアルバイトは、同じ悩みをもつシングルマザー同士が集まるきっかけとなり、ピアセンターの取り組みが始まりました。

●シングルマザーおしゃべり会「SDGs カフェ」

シングルマザー同士でいろいろ話すなか、気軽に話せるこのような場がもっとあれば、という声があがり、2021年7月に、シングルマザーのおしゃべり会を開催することになりました。そこで、ただ集まるだけでなく、お互いの学びや気づきになるよう「SDGs17の目標」をテーマに決めました。

●スタッフとして活動

このころのフードサポートのメインスタッフは、シングルマザーアルバイトスタッフのMさん、Nさん、Kさんでした。それぞれが楽しく、やりがいをもって活動できるように、自分たちが思うように工夫や開発をすればよいと伝えていました。

秋には、農家から大根を提供したいとの連絡があり、Nさん、Kさんが大鹿村（長野県下伊那郡）に大根のピックアップに行きました。

また、フードサポートスタッフを経験して就職に向けたウォームアップをしたTさんが、近隣の福祉施設に就職するといううれしい出来事もありました。

「第一生命」池袋総合支社有志のみなさま

「企業ボランティアアワード」 ユースサポート奨励賞受賞

第6回「企業ボランティアアワード」において、「第一生命」池袋総合支社池袋エリア有志のみなさまが「ユースサポート奨励賞」を受賞しました。コロナ禍で営業ができないなか、「地域の子どものために食を支援しよう！」と社員の寄付金で購入した食材の提供や、フードサポート拠点の運営に多大な協力をいただきました。



授賞式はオンライン開催。



「おうちでクッキングのきっかけに」とホットケーキミックス195袋をいただき、春休み中の子どもたちに届けました。

ライス！ナイス！プロジェクト <2年目>

▶ 2021年12月／2022年2月
「としま子ども若者応援基金」による継続

「ライス！ナイス！プロジェクト」の2年目となる2022年度は12月と2月に全区民ひろばにて実施しました。2020年の区による寄付集めをもとに、豊島区が「としま子ども若者応援基金」を設立し、その基金を用いてプロジェクトを実施しました。

また、米の提供元との連携が深まり、宮城県から各区民ひろばに申し込み世帯数分を配達されるようになり、仕分け、運搬作業が減りました。

一方で、それまで運搬作業を担当していた「東京豊島ライオンズクラブ」のドライバーボランティアに関わってもらう機会が減ってしまったのが課題感としてありました。

こうした地域の企業など多様な担い手が連携する地域プラットフォームの構想は、2021年度当初より常にテーマになっており、「トヨタ財團」に助成金申請をしましたが不採択となり、当助成金の獲得はもう一年待つことになりました。詳細は第6章に記載します。

◆としま子ども若者応援プロジェクト
<豊島区ホームページより>





2022-23 年度

おせっかえる活動

▶ 2022 年 4 月～

受け取り家庭がボランティアに

2021 年 12 月、フードサポート立ち上げ時から毎回お米を取りに来ていた高校生から、「大学合格」の報告を受けました。進学後もその子にお米を提供したいという思いから、受取り家庭が配布ボランティアになる〈おせっかえる活動〉が生まれました。行政のように 18 歳以下しか利用できない制度ではなく、子どもの学業でお金がかかる家庭には、これまでどおり食料支援を継続することにしたのです。

その代わり、親は支援を受けるだけでなく、フードサポートの実施に協力する〈おせっかえる〉になってほしいと呼びかけました。2022 年 4 月、〈おせっかえる活動〉が始まり、シングルマザーのほか、大学生もボランティアで配布活動に参加し、お米を持ち帰るようになりました。

各拠点を切り盛りしてきた拠点リーダーの座談会では、「支援の現場をママたちが手伝ってくれるのがよ

かった」「お母さんたちの気持ちがよくわかるので、運営についていろんなアドバイスをもらえた」「言葉かけが上手」などの声がありました。

● 外国人サポートや住宅申請

また、外国人ママのサポートを〈おせっかえる〉さんたちにしてもらうと、「自分たちより大変そう」、「こんなことに困っているんだ」という気づきがあったり、接することで外国人への抵抗がなくなったりといった変化が見られました。

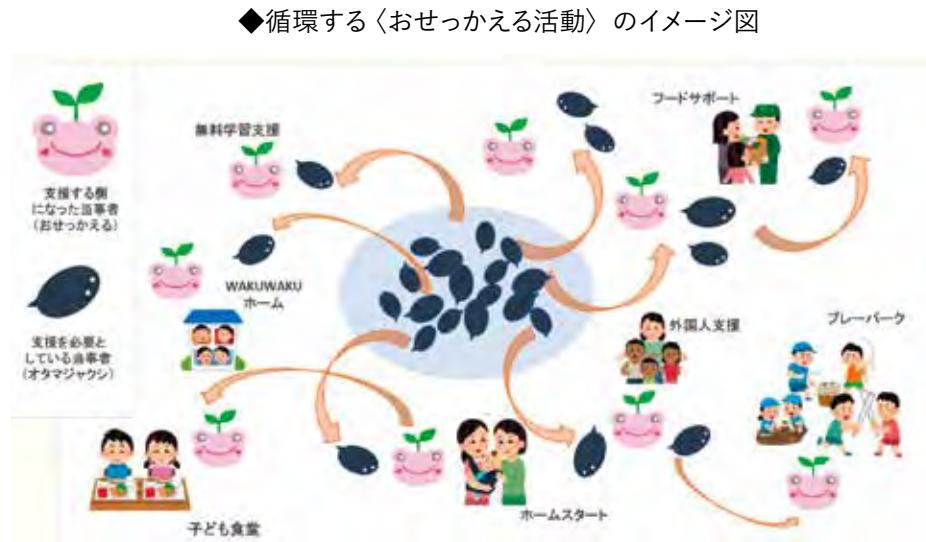
公営住宅申請サポートのボランティアも〈おせっかえる〉さんに担当してもらい、活動の幅が広がった方もいました。

活動の一環として、前述の「シングルマザーおしゃべり会」が続いている。また、活動はフードサポートから徐々に WAKUWAKU のほかの活動にも広がっていきました。

● 〈おせっかえる〉さんからリーダーへ

2024 年 4 月現在〈おせっかえる登録〉したシングルマザーは 50 人に。この方が地域の子ども支援活動などのリーダーになっています。

こうした活動をとおして、〈おせっかえる〉さん自身の就職活動が変わってきたといいます。例えば、希望職種の視野が広がり、福祉関係や公的機関の仕事などにもチャレンジする方も出ています。



「おせっかえる活動報告会資料 2023 年度」より (P42 資料⑨参照)

飲食店による支援の輪の広がり

2022年度は、飲食店による食べ物支援の輪が広がりました。

お店のこども食堂 みせしょくチケット

▶ 2022年2月～

●お店で使えるチケット配布

地域の飲食店による食支援の取り組みも広がりを見せてています。

「お店のこども食堂」を企画した企業、「テンポイノベーション」は、豊島区内の取引先の飲食店に実施を働きかけ、これにかかる食材等の費用を出資。企業独自の社会貢献活動を行いました。

「お店のこども食堂」を実施したのは区内の19店舗。これらの店舗のいずれかで1回のみ使える「みせしょくチケット」をWAKUWAKUがフードサポート参加家庭に配布しました。

●食支援しやすい環境へ

2020年の「ライス！ナイス！プロジェクト」で配った、地域のお店で使える食事券の取り組みが参考になっているほか、これまでのフードサポートの取り組みをとおして、食料支援を必要とする家庭の情報が

◆〈みせしょくチケット〉：1枚で2人無料で食事ができます。



◆「お店のこども食堂」〈みせしょくチケット〉の取り組み



「テンポイノベーション」ホームページより

WAKUWAKUに集まっていることにより、食支援による社会貢献をしたい企業が実践しやすい環境がでてきたといえます。

●「王将餃子弁当」の提供

2022年8月には、「全国食支援活動協力会」を介して「王将フードサービス(餃子の王将)」から「餃子弁当」の提供がありました。

8月の1か月間、のべ432世帯に配布しました。



「王将餃子弁当」を
配りました！



お弁当を手渡しで。横にはシールや風船も！



「区民ひろば清和」拠点。お弁当と一緒にお菓子や文房具も並びます。



認定NPO法人

豊島子どもWAKUWAKU ネットワーク

地域活動の入り口に

●積み重ねが力に

世界情勢の変化による物価の高騰が続いていたこともあり、2023年度もフードサポートを毎月実施しました。

2020年からの積み重ねをとおして、各拠点で定期開催する仕組みができたので、ボランティア活動をはじめたい方が地域活動や、子ども支援活動に関わる最初の一歩として参加しやすい場として案内できるようになりました。

また、企業のボランティアへの案内もスムーズになり、食料品などを運ぶトラックセンターの協力も得られやすくなつたほか、寄付をしたい方にもわかりやすくなりました。

定期的に活動があることで、受け取り家庭とボランティアも知り合いになり、地域に馴染めないと言っていた高齢の地域ボランティアさんが、フードサポートで親子に会うのを楽しみに待たれるような関係性も生まれてきました。

リーダーシップの広がり

●気づきの共有とネットワーク化

2023年度は、これまでの活動の継続をベースに、担い手がさらに成熟していった年でもあります。

各拠点のリーダーが区民ひろばの職員や協力団体、ほかの拠点リーダーとの結びつきを深めたり、地域の友人、知人を誘うなどして仲間を増やせた一年になりました。

定期的な活動をすることで、受け取り家庭の変化に気づけるので、一緒に活動する仲間と気づきを共有し、協力し合う関係性ができていきました。回を重ねるごとにパイプが太くなり、リーダー同士がネットワーク化し、仲間を得てさらに主体的になっていく様子が見られました。

外国ルーツの家庭への食料支援活動との相乗効果もあり、当初の「食料配布に協力するだけ」の関わり方から、「ほかの方法でも困っている人をサポートしていく」関わり方を考え、実践していく人たちも生まれています。

振り返れば、フードサポートという一つの活動を継

続することがさまざまな意味を成してきています。フードサポートは、2024年3月をもって毎月の開催を終了しましたが、WAKUWAKUは、まち全体で、できることがどんどん生まれていくことを目指して、これからも活動を続けていきます。



豊島区役所子ども支援課にスタッフ集合！

「子どものセーフガーディング」のための行動規範の策定

フードサポートを介して多くのボランティアと活動を広げるなか、子どもとの距離の取り方や写真の取り扱いなど注意しなければならない点に気づき、ガイドラインを策定することにしました。

「子どものセーフガーディング」とは、関係者による虐待や搾取など、子どもの権利に反する行為や危険を防止し、安心・安全な活動と運営を目指す組織的取り組みです。

2022年8月に策定した「子どものセーフガーディングのための行動規範」では、全ての関係者がしてはならないこと16項目と、子どもと接する際に留意すべきこと7項目を明記しています。〔次頁に掲載〕

◆ボランティア・ガイドライン〔P43に掲載〕



認定特定非営利活動法人豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク
子どものセーフガーディングのための行動規範

全ての関係者に以下の行為は許されません

- A. 子どもを叩いたり、暴力によって身体的に傷つけたりする
- B. はさかしめる、自尊心を傷つける、軽視する、見下すなど、あらゆる方法で子どもを心理的に傷つける
- C. 子どもに対して、または子どもがいる前で、不適切な言葉を使ったり、侮辱的・攻撃的な提案や示唆をする
- D. 特定の子どもを差別したり、他の子と異なる扱いをしたり、えこひいきをして集団から排除する
- E. 子どもと性的・肉体的関係をもつ
- F. 子どもの体を不必要に触る¹⁾
- G. 子どもが自分でできることを必要以上に手伝う
- H. 不適切な、あるいは、性的なことを連想させる挑発的な身振りや態度を取る
- I. 「男らしく」「女らしく」といったジェンダーを押し付けるふるまいや言葉かけをする
- J. 違法、危険、または乱暴な子どもの振る舞いを大目に見たり、加担する
- K. 連絡先の交換について
 - 1) 活動に関わる子ども及びその家族と活動外で個人的に連絡をとる、もしくはとろうとする²⁾
 - 2) 活動に必要でないのに、子ども及びその家族の連絡先を聞いたり、自分個人の連絡先を教えたりする³⁾
- L. 活動に参加している子どもと同じ部屋で寝る。ただし、例外的状況かつ事前に活動拠点の責任者の許可を得ている場合を除く
- M. ポルノグラフィーや過激な暴力を含む不適切な画像、動画、ウェブサイトに子どもを誘導しその危険にさらす
- N. 子どもや保護者の許可なく、写真や動画を撮影する⁴⁾
- O. 子どもの個人情報（写真、動画、氏名、学校名、住所、連絡先など）を不適切に扱う。（オンラインに投稿する、むやみに人に共有する等）
- P. 規範違反との疑念をもたれかねないような状況に自分自身を置く

子どもと接する際に以下の点に留意する必要があります

- Q. どのような状況が子どもにとって危険なのかを察知し、未然に対処する
- R. 危険を最小限に留められるよう、計画段階で事業内容や実施場所を熟考し必要な環境を整える
- S. 可能な限り、他者の目が届く場所で子どもと接する
- T. どのような問題提起や懸念も気軽に表明できて話し合えるような、オープンな雰囲気をつくる
- U. 不適切な行為または虐待となりうる言動が見過ごされないように、各々が責任感を持つ
- V. 職員や関係者とどう接しているかについて日ごろから子どもと話し、子どもが気になっていることがあれば伝えるよう促す
- W. 子どもをエンパワー*する。すなわち、子どもの権利に関する理解や、何が適切で何が不適切か、また問題が起きた時にどうしたら良いかについて子どもたちと話し合う。

*エンパワー：できるだけ子どもが自分で対応できるようになるように心がけること

- 1) ホームスタート（暮らしサポート事業）では、活動の一環として、子どもの最善の利益のために必要な場合、保護者の承諾を得て、「抱っこ」「手をつなぐ」等の身体的接触を行うことがあります。この場合、子どもの年齢及び発達の程度に応じてその意思（嫌がっていないか等）に十分に配慮します。
- 2) ホームスタート（暮らしサポート事業）では、活動終了後、必要性があり、かつ、利用される方が希望される場合に連絡先を交換することがあります。その場合でも脚注「3」を遵守します。
- 3) 活動上、子ども及びその家族と連絡先を交換する必要が生じた場合には、当該活動拠点において定められたルールがあればそれに従います。また、定められたルールがない場合には、事前に、当該活動拠点の責任者に相談してその指示に従います。連絡先を交換した場合には、当該活動拠点の責任者に求められた場合等、やり取りした内容を提出する事に応じます。
- 4) 当法人の広報活動及び行政や助成を受けている団体への報告のために、各活動拠点の責任者及びその指示を受けたスタッフが、活動状況を当法人の所有・管理するカメラ等で撮影することができます（個人の携帯電話・カメラ等の機器で撮影することはしません）。その場合、当該活動拠点において、撮影を行っていること、撮影を望まない場合にはその旨をスタッフに申し出て頂きたいことを掲示します。子ども及び保護者から撮影を望まない旨の意思が表明された場合には撮影をすることはしません。また、子ども及び保護者の承諾なく、撮影した写真や動画を個人が特定できる形で第三者に開示することはしません。



第5章 拠点リーダーふりかえり座談会

フードサポート活動が終了してしばらくたった2024年4月下旬、2日間にわたり6人の拠点リーダーが集まり、WAKUWAKU・栗林のファシリテートで座談会を行い、活動を振り返りました。

〈参加メンバー〉

- MKさん*「区役所」
- MWさん*「区民ひろば椎名町」
- IMさん*「区民ひろば千早」
- MAさん*「区民ひろば長崎」
- TMさん*「区民ひろば駒込」
- AEさん*「区民ひろば南大塚」

（フードサポートをして良かったこと）



「フードサポート活動をして良かった」と思えた、出会いやエピソードをおしえてください。

● 小さい男の子連れのママがクリスマスプレゼントをとても喜んでくれて、じっくり話を聞けた。会うたびに子どもが大きくなったと感じた。

● 低学年の男の子が一人で受け取りに来ていたので、養育放棄の可能性も考えて荷物と一緒に持つて帰り、支援につなげた。

● 企業がサンシャイン水族館に招待してくれた時に、地域の子ども2人を連れて参加した。そのうちの1人は、1年生の時に学校に行けず泣いていた子だったけれど、いまでは「運動会を見に来て」と誘ってくれるようになった。

● 「離婚で問題があるけれど、どこに相談してよいかわからない」と、頼ってくれた。

● 外国人のお母さんに、ほかの外国人の方と友達になれるように紹介したら、にっこりして帰られ

た。翻訳アプリを使って会話するなどして、また来てもらえた。

● 毎月会えることが大事だと思った。

日常はなんとなくの見守りで、時どきLINEして「元気?」と聞いたり、フードサポートの時に取りに来なければ連絡した。フードサポートがなくなつたいま、ふと2か月間が空いていることに気づく。

● 病気で車椅子だった子が、4年後には元気になって、「Mさんに会いたかったから来た」「受験受かりました!」と喜びをシェアしてくれた。

● 名簿にない人が受け取りに来て、本来申し込んだ先の拠点に連絡してもつながらない。渡してしまったら、申し込んだ人の分が足りなくなるかもとドキドキした。お米が間に合ってよかったです!

● 小さい子が、家から持ってきた木カロンを「Mさんにあげる」とくれたので、「いつものより100倍あったかい」と話した。フードサポートと「地域がつながるPJ」の利用者は重複しているので、タッチポイントが増えて良かった。

● いろんな地域の人が交わり、3~4年で**自然に会話**が生まれるようになった。子どもたちも、名前は知らないでも顔は知っている関係に。互いに**大きな変化**だと思う。

● 3年間活動したので、理解も広がり、たまたま通った方が現金を寄付してくれることもあった。

期限切れになりそうな調味料やお菓子を箱ごとくれる方もいて、「地域の方から」とメモをつけて配った。



「区役所拠点」のみなさん。リーダーMKさんは、区役所と「良品計画」拠点を担当。地域の無料学習支援でも長年にわたり活躍しています。

仲間づくり



拠点のボランティアを集める苦労があったと思います。
仲間づくりはどうでしたか？

● 仲間が集まらない大変さが最初はあったと思う。

● 民生委員は班で活動しているので、班のなかで協力してくれそうな方に声をかけた。食べ物を配ることについて批判的な方には声をかけなかった。

● 手伝いに来てくれた方に、**その場でボランティア登録をしてもらい、続けてもらえるように**した。お互いに顔を合わせて友達になって、やり取りできる仲になるのが大事。



「区民ひろば駒込」のみなさん。リーダーTMさんは、地域で無料学習支援を運営。外国ルーツの子どもに日本語を指導するため自身も勉強しているパワフルウーマン！

● 区民ひろばの理事たちが「やるわ」と言って、核になってくれた。社協のCSWや大正大学の学生も加わってくれたほか、〈おせつかえるさん〉にもずいぶん助けてもらった。

● 民生委員や子ども食堂のときのスタッフ仲間に声をかけた。埼玉から来てくれる方やバスで来てくれる方もいて、「子ども食堂のときの子どもやママに会えるのが楽しみ」と言ってくれた。

● 区民ひろばでの活動に**町会長さんを誘つたら、『楽しい』**と言っていつも来てくれた。

● 通りがかりの方や地域でお店をやっていける方が活動を見かけて「私も」と入ってくれた。



活動からのつながり

- ボランティアで来てくれた方が「なんでもやりたい」と、区民ひろばの運営協議会にも加わってくれた。
 - 来ないと友達になれないから、双方でやり取りするには顔を合わせるのが大事。
- 拠点運営のLINEグループに20数人いて、声かけると、毎回10人余りが「やりたい」と集まっています。

くれた。食べ物を通じての活動だったのが大きかったと思う。温かさが伴うので。

ただの集まりでなく、活躍の場があったのが良かったが、今は何もない。お茶会をしたいがまだできていない。

- 子どもと同じクラスのママ友をフードサポートに誘った。学校以外の場所でも会え、読み聞かせの会でも会って、親しくなれてうれしい。

大事にしていたこと



運営するなかで、どんなことを大事にしていましたか？

受け取り手とのコミュニケーション

- サポートする側、される側の差を感じさせないように気を付けた。遠慮して来なくなってしまう人もいるので。
- 拠点での配布時間は30分、受付して「どうぞ」という流れで、はじめのころはコミュニケーションをとるのは難しかったが、慣れてくると、お料理やお店の話をする時間も生まれ、そういう雑談も大事にしていた。



「区民ひろば千早」のみなさん。「区民ひろば高松」の拠点リーダーもつとめるIEさんは、地域で外国ルーツの子どもを中心とした学習支援「まなびすたーり」を運営。

- リーダーが受付をしてしまうと、リーダーと話したい人が話せなくなってしまうので、フリーでいられるようにスタッフ間でうまく協力した。

- 前月の会話を憶えておいて「そのあとどうだった？」と様子を聞き、困りごとに応できるようにした。事務的なチェックなどは、ほかの人にお任せし、横で個別に話をするようにした。



「区民ひろば南大塚」のみなさん。地域の仲間と「新大塚みんなの居場所」を運営しているAEさんがリーダーを担ってくれました。



個別のサポートもきめ細かくされていましたね。

個別のサポート

●はじめたばかりのころ、取りに来るのを忘れた人に電話してみようか、と相談してうまく届けられたので、以降、そのようにしてサポートができている。

●普段は行政も入れない気になるご家庭でも、お米は大事だから申し込んでくれる。前の日に名簿をもらえたので、気がかりな家庭が申し込んでいるかチェックしておき、来てくれた時話をして、「最近どう？学校行けてる？生活大丈夫？」と声かけ。行政も気にかけているので、会えたこと、学校に行けていることを伝えた。

●民生委員には守秘義務があるので、その場で地域の民生委員を呼んで、見守りをお願いしたり、近くの民生委員を紹介したり。家に行かなくても外だから顔見知りになれる。これは行政はできないこと。

●困っているのに申し込みしていない家庭に電話すると、「メール見てなかった」、「忘れてた」ということも。栗林さんに相談し、フォローしてもらったり、届けに行ったり。

お米や食べ物など、何かもってくるおばさんだと思ってドアを開けてくれる。門が開かないお家にはそうして入れたが、フードサポートが終了して、これからは様子がわからないので、どうするのか、とても心配。

●心の病気で常に眠いお母さん。こもっているとダメだから出てきてもらおうと電話して、お米を取りに来てもらった。真冬でも裸足にサンダルだけ、来てくれた。

●先に名簿をもらえたのは、ありがたかった。



ボランティアのみなさんも楽しんで活動しているようですが伝わりました。リーダーの気配りがあったのでしょう。

ボランティアへの配慮

●ボランティアの方たちに「楽しかったね」と帰ってもらえる雰囲気づくりを心掛けた。そのうち、この人は段ボールを束ねるのが上手、セールストークが得意、とわかってきて、うまく役割分担し、チーム千早、チーム高松という感じでできたのがよかったです。

●楽しいと思わない人は「今回はムリ」とやめていくので、「良いことをしている」よりも、とにかく「楽しんで」というのを大事にした。顔を見て

「どっちが良い？」とか「これは、〇〇だよ。」とか会話をして、楽しいと思ってもらえるように、とリーダー間で毎回話した。上から目線で偉そうにする人もやはりいたので、あとでフォローしたり。そして、自分たちも楽しむことを心掛けた。

●受け付けがうまくいくようにするには、会場のレイアウトが大事。さっと受け取って流れて、選ぶものは最後にと、ボランティアさんがよく考えてくれたので、他の方にも「お願いしますね」「楽しくしましょう」と声をかけるようにした。



●ボランティアの方が互いに名前がわからないので、可愛い名札をつくってくれた。子どもにボランティアの名前がわかるのもよかったです。

●「ちょっとのボランティア」、「気軽に参加できる」を大事にして、「行けません連絡」は要らないよと伝えていた。

●フードサポートが地域の人たちの間の関係づくりのきっかけになり、区民ひろばが地域の人にとって良い場所になって良かったですね、という思いを共有するようにした。

拠点運営の苦労



区民ひろばが拠点となって、活動が広がりましたね。運営の苦労もたくさんあったと思います。

拠点の環境

●公共施設なのではじめは制約が多かった。重いテーブルを外に運び出して並べるのが大変で、冬は強風と寒さで過酷な環境だったけれど、ある日、中に入れてもらえるようになった。

テーブルの脚が壊れたときに、怒られ、書類を書いた。後半は、施設の方も理解してくださるようになり、協力的になったと感じる。

●配布数が少ないので、区民ひろばの玄関で良いとはじめは言っていたけれど、寒いし、来てくれた人と話ができるように、と施設の人と話して中に入れてもらえるようになった。



「区民ひろば長崎」のみなさん。長年、地域の子ども食堂で活躍しているリーダーのMAさんは、だれにでも声をかけ仲良くなる天才！

●区民ひろばが工事で使えなかった時に、場所を探すのが縄渡りのようで、精神的な負担だった。それで一回休んだり、道路でやったことも。

拠点リーダーの毎月のコミット

●毎月の開催は大変だった。フードサポートがある土曜日に自分の用事をいれずに空けておくのは、だんだん「なんで？ムリだよね」となってきた。「最悪、WAKUWAKUさんが来てくれたらしいじゃん」と帰り道に愚痴を言い合ったことも。

●お母さんたちは助かるし、ボランティアさんたちは「今日は良かった」と帰ってくれる。でもなんで私はマストなのか。

Sさんが「私で良ければ」と言ってくれたので、何度かお願いした。

負担を軽減するため、振り返りのまとめをSさんが全部してくれるようになった。こんなに大変なのなら、どこの拠点にもWAKUWAKUの方がいる方が良いのではと思った。

●名簿は個人情報なので複数の人が見られないよう、拠点リーダーが預かる。なので、リーダーはずっと受付だった。受付に貼りついていると、ほかのスタッフたちの気持ちはわからない。どんな支障があったのか。なにが楽しかったのかがわからなかつた。

●3週目の土曜にフードサポート、4週目の日曜に弁当配布がはいつた。月の半分がボランティアで埋まつてしまい、用事を夫に代わつてもらつたことも。姪の結婚式のときはWAKUWAKUのGさんにお願いした。

いまではほかのスタッフと仲良くなり、お茶する仲間になつたのがよかつた。



「区民ひろば椎名町」のみなさん。リーダーMWさんは、2024年から地元小学校の「おはようバナナ」実行委員長としても活躍しています。

●うちの地域ではリーダーを2人体制にしたのが良かった。リーダー正副は決めなかつたけれど、自分が都合つかないときに代わりにやってくれる人がいたのは良かった。



〈おせつかえるさん〉にも助けられました。

ボランティアのコーディネート

●配布ボランティアを募つたときに、「都合悪い」という返事が続くと落ち込んだ。人手が足りてなかつたが、利用した方が〈おせつかえるさん〉になって手伝ってくれるようになったのがすごく良かった。

●反省会の度に要望が多く出て、中には主張の強い方もいて、悩んだ。

●〈おせつかえるさん〉になる人がいなくて、人数が増えない拠点もあり、大変そうだった。

●取りに来るのを忘がちな4人の方に開始5分前から電話するようにしていた。「体調悪いなら持っていくよ」など。電話するのを忘れると、終了時間が遅くなつてしまい、ボランティアさんに「ごめんね」と言わないといけなかつた。

●悪気なく陰謀論を話す人がいて雰囲気が悪くなつたが、ボランティアの行動規範をつくつて共有するようになって、うまくいくようになつた。ボランティアが200人いれば、何人かはそういう人もいる。



地域にはいろいろな人がいるからおもしろいのだけれど、思いもよらない問題も起こります。でも、問題が起きたから「ボランティア・ガイドライン」ができたし、コロナで学校休校の事態があつたから食でつながる〈おせっかい〉な輪はこんなにも広がりました。

これからも、地域で問題が起こつてもあきらめず、他人事にせず〈おせっかいの輪〉を広げていけば、乗り越えられる！そんな気がしますね。



認定NPO法人

豊島子どもWAKUWAKUネットワーク

第6章 気づき・つながりから生まれた取り組み

本章では、フードサポートでの気づき・つながりから、目指す地域づくりに向かって発展した、新たな取り組みを紹介します。

- 小円卓会議
- としまこども団
- 子ども服マーケット
- WAKUWAKUすまいサポート

- WAKUWAKUしごとサポート
- シングルマザー無料パソコン教室
- 就労体験プロジェクト
- 中学校校内カフェ「にしまるーむ」

地域密着型 小円卓会議

▶ 2021年7月～
運営：豊島区長崎ブロック有志
開設時期：年に2～3回

2021年度、長崎ブロックで地域のために活動している人たちが集う、地域密着型の「小円卓会議」を始めました。

持続可能な地域づくりを進めていくためには、日常生活で身近なエリア、小地域を単位に、そこに住む人や活動する人が主体となるプロセスをつくる必要があるという考えのもとに企画しました。

2021年に3回開催した「小円卓会議」には、毎回約15人が参加し、「長崎地区でさまざまな地域活動をしている人が、それぞれ直面している地域課題と、改善案を共有し、地域でできることを、垣根を越えて話し合う」をテーマに、意見交換を重ねていきました。

●地域の課題が自分事に

会議では、町会、商店街組織、消防団、民生・児童委員、社協CSW、地元の市民団体などが顔を合わせ、「外国ルーツの子の学習支援」「高齢者が行ける銭湯がない問題」「災害時の不安」など、地域生活の気になることとして話題になります。一緒に話すことで、地域の課題が自分事になり、日頃は高齢者

を気にかけている人が、子どものことにも協力してくれるようになりました。

対話をとおして、高齢者支援と子ども支援がプレイヤーを取り合うのではなく、互いの活動に参加し合う関係になり、多世代のつながりにも発展しています。

「小円卓会議」に先立ち、豊島区は、区全体の「豊島みんなの円卓会議（大円卓会議）」を、2019年度から年2回実施しています。フードサポートなどで協働した企業にも参加を案内し、円卓会議の出席者の輪が広がりました。〔P42 資料③⑤参照〕

〈豊島みんなの円卓会議〉とは

豊島区では、全ての人を取り残さない包括的で安心できるコミュニティづくりを、行政・民間ともに、それぞれのやり方で取り組んでいます。もっとも、地域での活動はまだ各個人や組織が独自に取り組んでいる側面があり、有機的なネットワークを形成しきれていません。また行政と民間それぞれがお互いの活動を十分に認知し、活用し合うような関係も十分に形成されているとは言えません。

同じ志をもって活動をする行政・地域の人たちが、お互いの課題意識を共有し、より良い協力・連携関係をつくりあげるための対話を目指す場が〈豊島みんなの円卓会議〉です。

としまこども団

▶ 2021年春
「トヨタ財団」助成プログラム事業
「としまこどもつながる交流会」(年数回)

● 「としまこども団」の立ち上げ

2021年春ごろ、それまでのフードサポートや「ライス！ナイス！プロジェクト」の活動をともにした地域の関係者たちが、「さらにいろいろな人が関わり、子ども支援の取り組みを広げたい」という夢を描きました。

具体的なプランはまだないけれど、子どもたちのために活動したい人や企業が参加できる地域プラットフォームがあるとよいのではないか。

そこで、トヨタ財団の2022年度国内助成プログラム「地域における自治を推進するための基盤づくり」の助成を得て立ち上げたのが「としまこども団」です。

●企業も連携したプラットフォームづくり

2021年度の申請が不採択となったあと、弁護士法人「東京パブリック法律事務所」の谷口さんや「サンシャインシティ」、「良品計画」の有志社員にプラットフォームづくりを持ちかけ、毎月1度の会議を重ねていきました。そして、企業も連携してプラットフォームを創ろうという機運が高まり、改めて2022年度に当助成プログラムに申請し、採択を得ることができたのです。

「としまこどもつながるプロジェクト検討チーム」(申請代表者:栗林知絵子)として「としまこどもつながるプロジェクト:地域一体で子どもを支えるプラット

フォーム」を申請し、550万円(助成期間2022.11.1～2025.10.31)を獲得しました。

「としまこども団」は地域で活動される市民や諸団体のみなさまのナレッジシェアや交流促進を目的とした「としまこどもつながる交流会」を年数回開催するほか、サンシャインシティが開催する「子ども服マーケット」へ協力できる企業・NPO・大学等を紹介しています。



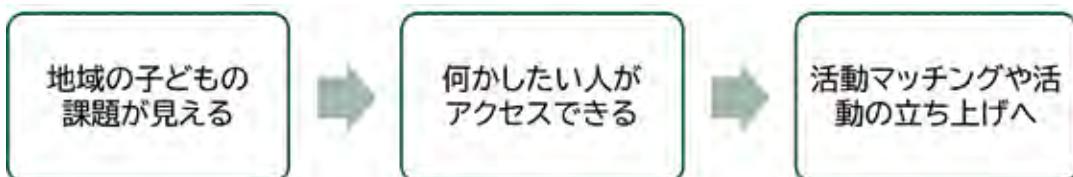
私たち「としまこども団」は、豊島区でさらに支援のネットワークを広げていくためプラットフォームです。行政、企業、NPO、ボランティアの個人、みんなの活動を有機的につなげて、さらに新たな活動を生み出していくことで、地域のこどもたちを、もっと力強く支えていきたいと考えています。



夏休み子ども伝承教室 一地域が連携して子どもたちの文化体験を応援

「としまこども団」ホームページより

◆地域プラットフォームができるプロセスのイメージ





●子ども支援の間口広がる

そのほかにも、連携企業につながりがあるコーピーライターの方が「としまこども団」のネーミング、別の方がロゴ制作を担当するなど、企業による人的協力が増え、子ども支援に協力する間口が広がりました。

これをきっかけに豊島区で子ども支援の層が拡大し、食料支援のボランティアも増えるという相乗効果が生まれたのもうれしい成果です。

サンシャインシティで開催 子ども服マーケット

▶ 2022年12月～

フードサポートでの受け取り家庭との会話のなかで、見えてきた困りごとの一つは、「子どもが成長して洋服がサイズアップするけれど、なかなか買うことができない」という悩みでした。

子どもの成長を支えるために、子ども服支援も欠くことができない支援であると認識し、WAKUWAKUとサンシャインシティ主催で「子ども服マーケット」を企画しました。

サンシャインシティに「子ども服回収ボックス」を配置し、子ども服の寄付を呼び掛け、集まった服を提供するマーケットです。

服の整理やマーケット当日スタッフとして、社協の協力を経て、地域のボランティアや、近隣大学の学生ボランティアグループ、地元企業の社員ボランティアなどが参加しました。



混雑を避け予約制で開催した「子ども服マーケット」

居住支援法人 WAKUWAKU すまいサポート

▶ 2020年6月～

●居住支援法人の認可で住まいのサポート開始

豊島区は都内でも有数の空き家率の高い地域で、空き家活用のためのセーフティネット住宅を開拓しようと、2020年6月に東京都から「居住支援法人」の認可を受けました。

WAKUWAKUでは住まいの支援が必要な家庭に接する機会がたびたびありました。新型コロナウイルス感染症拡大が家計を直撃し、家賃の支払いが困難になったり、狭小住宅で子どもと過ごし家族関係が悪化するなど、ひとり親家庭の住まいの困りごとが寄せられ、居住支援法人となったことで、住まい探しを本格的にサポートすることになりました。



住まいが決まったら、引っ越しもサポート！

初期費用や家賃の金銭的な困りごとのほかに、ひとり親への偏見で入居を拒まれたり、不動産業者から心無い言葉を浴びせられるなど、ひとり親という条件による住まい探しの困難があることがわかりました。

手探りで始めた居住支援。はじめはなかなか物件のマッチングができませんでしたが、サポートを続けていくうちに、理解ある不動産業者やオーナーともつながり、うまくマッチングできるようになりました。今では、ひとり親世帯のほかに、外国人世帯も多くサポートしています。

●住宅支援サポートの会開催

2021年5月から、公営住宅の申し込み書類と一緒に作成する会（年5回）を開催。

2022年11月からは、豊島区福祉総務課・豊島区居住支援協議会・公益社団法人「シャンティ国際ボランティア会」と協働で、ひとり親・外国籍・高齢者向けの都営住宅サポート会（年1回）を開催しました。



公営住宅申請書類の作成をフォロー。

無料職業紹介所 WAKUWAKU しごとサポート

▶ 2022年4月～

●無料職業紹介所の認可

WAKUWAKUでのしごとサポートは、解雇されて困窮するひとり親家庭をサポートするため、2020年8月にフードサポートでシングルマザーをアルバイト雇用したことから始まりました。

企業から示された仕事情報を紹介することは、職業紹介にあたるので、国から「無料職業紹介所」として認可を受ける必要があります。地元企業から仕事提供の申し出を受けたWAKUWAKUは、さっそく手続きを行い、2022年4月、無料職業紹介所の認可を受けました。

シングルマザー 無料パソコン教室

▶ 2021年12月～22年3月

●在宅仕事の提供を受ける

はじまりは、豊島区のある企業から「当社ならではの協力をしたい」と、自宅のパソコンでできる仕事を提供してくれたことでした。

フードサポートのアンケートで、仕事がなくて困っているというシングルマザーにこの仕事を持ちかけたところ、パソコンスキルがないため、まずは講習を受けたいという人がいました。なかには、ハローワークのパソコン教室に申し込んだが参加させてもらえないという40代の人もおり、それならWAKUWAKUでパソコン教室をしようとスタートしました。

●4か月で基本操作を習得

ビジネススクールでバリバリ教えるような教室ではなく、「初心者にも取り組みやすい優しいパソコン教室に」と、普段は高齢者に単発でパソコンを教えている方に講師をお願いしました。

週1回、4か月にわたる長い期間でしたが、10名が参加し、みなさんシフトをやりくりして熱心に取り組みました。パソコンをほとんど触ったことがない人も、4か月でワードとエクセルの基本的な操作を習得。自信をもって使えるようになりました。

3月の最終日、「みなさんの熱心な姿に本当に驚きました。私はシングルマザーに偏見をもっていたかもしれません。みなさんの姿に感動しました」と講師が涙する場面があり、参加者からも講師とスタッフにプレゼントや手紙を渡され、温かい別れとなりました。



パソコン教室のようす。週1回熱心に取り組みました！



就労体験プログラム

▶ 2022年11月～24年1月

●スキルを高めて就活チャレンジ

フードサポートや〈おせっかえる活動〉に参加するシングルマザーから、「子育てのために離職して長いので就職活動に自信がない」「オフィスワークをしたことがないので選択肢が限られている」という就労についての悩みを聞きました。

また、フードサポートに携わるなかで、飲食や小売りなどのサービス業以外の仕事もできるかもしれない視野が広がった人もいます。

そこではじめたのが、「就労体験プログラム」です。WAKUWAKUの事業を3か月、あるいは6か月間手伝いながら、職業スキルを高めるための講習を受けたり、キャリアコンサルタントと面談するなどし、就職

活動にチャレンジします。

●「企業ボランティアアワード」大賞受賞

2022年11月から24年1月の期間中に16人が参加しました。ここでも企業のボランティアがパソコンを教えたり、キャリアコンサルティングを担当してくれました。

このプログラムをサポートしてくださった企業「TIS株式会社」の有志社員のみなさんは、2023年「企業ボランティアアワード」で大賞を受賞されました。



2023年度「企業ボランティアアワード」授賞式。大賞を受賞された「TIS株式会社」有志社員のみなさん。

< 就労体験プログラム参加者 >

1期生（2022年10月採用）参加者 8人 進路確定者 4人

2期生（2023年1月採用） 参加者 4人 進路確定者 4人

3期生（2023年4月採用） 参加者 4人 進路確定者 1人

< 実際に取り組んだ業務 >

WAKUWAKU のお手伝い

- ・フードサポートの準備、運営
- ・WAKUWAKU ホームの食事作り
- ・外国籍の書類サポート、行政同行
- ・居住支援の不動産同行
- ・サンシャインシティで洋服の仕分け
- ・メルマガテキスト作成等ワード実践業務
- ・展示ボード作り
- ・寄付食材の回収、運搬
- ・子ども食堂の手伝い
- ・外国語学院の相談窓口
- ・出張ブレーパーク
- ・データ集計、事務作業等エクセル実践業務
- ・チラシ作成等パワポ実践業務

就労体験企画

- ・外国籍ママとおにぎりづくり
- ・カタカナカルタの作成

研修

- ・アンガーマネジメント5回
- ・キャリアコーチング4回
- ・PC研修8回

就職活動

- ・企業訪問3社（人事、経営者を訪ねて）
- ・起業相談（事業計画書の作成）
- ・企業ボランティアによる就職サポート（面接、職務経歴書、レポート作成）

西池袋中学校校内カフェ にしまるーむ

▶ 2023年5月

豊島区「中学生の居場所づくりモデル事業」

運営：豊島区教育委員会×西池袋中学校

× WAKUWAKU

開設場所：生徒玄関前ホール

●子どもたちの声を聞く

フードサポートや「地域がつながるプロジェクト」などの活動で、不登校の子どもとその家庭と出会い、「具体的に子どもに何が必要か」を考えることになりました。

そこで、子どもの声を聞くため、中学を卒業し、WAKUWAKU に関わっている子どもたちに「小円卓会議」参加してもらいました。「学校では本音が話せなかっただけで、居場所だと素の自分でいられる」「児童館が好きだった」「公的な場所であれば、親に何も言われず、行くことができた」といった話が出ました。

それなら、中学校内にそのような場所があるとよいのでは、という方向性が見え、出席していた民生児童委員協議会の寺田会長とも共有ができました。

●コロナ禍で不登校生徒が激増

2022年春、地区の民生委員による学校訪問があり、西池袋中学校校長から、

「コロナ禍で不登校の生徒が激増しており、もはや学校の力だけではどうにもならない」という相談がありました。

折しも、この取り組み実現のカギを握る区長はじめ、関係者が揃う「豊島区制施行90周年記念式典」が、2022年11月に開催され、その席で、教育長と民生寺田会長にこの構想を話しました。

新型コロナウイルス感染症拡大が引き起こした生活困窮や生活リズムの変化が子どもたちに大きな影響を及ぼし、不登校の子どもが増えたことが政策課題になっていたことから、その対応策となる校内カフェの設置に向け、区も動き出しました。

●学校内の居場所づくり

学校がSOSを発している事態に、地域としてなんとか応えようと、教育委員会、中学校、PTAや地域関係者とWAKUWAKUでの検討がスタートしました。

そして、まずは先行事例を学ぼうと、西東京市で実施されている中学校校内カフェの関係者に西池袋中学校に来てもらい、関係者が事例を学ぶ機会をもちました。「学校の中に居場所をつくる」イメージをもつことで、このあとスピーディに具現化が進むことになります。

●「にしまるーむ」の開設

中学校の中で、子どもたちと地域のいろいろな人が交わる場、学校とも家庭とも違う「第2.5の居場所」として「にしまるーむ」が開設されました。

2023年5月にオープンした「にしまるーむ」は、西池袋中学校の生徒が気軽に立ち寄り、思い思いに過ごせる〈居場所〉です。〔P42資料⑪参照〕



何をしても、何もしなくてもよい居場所「にしまるーむ」で過ごす生徒たち。



第7章 フードサポートが生み出した地域共生のインフラ

最後に、フードサポートが生み出した「地域共生のインフラ形成」について紹介します。

モノがつなぐ顔と顔

モノ〈食べ物・場所・服・仕事など〉を介する取り組みで、定期的、重層的な接点をつくることで、子どもとその家庭は、支援団体のスタッフだけでなくさまざまな人と関係をつくれるようになり、大人になるまで伴走できることがわかりました。

モノを介した取り組みにより多様な役割が生まれ、いろいろな立場の人の出番ができ、地域の人たちの顔と顔がつながるようになりました。

出番をつくり、リーダーを増やす

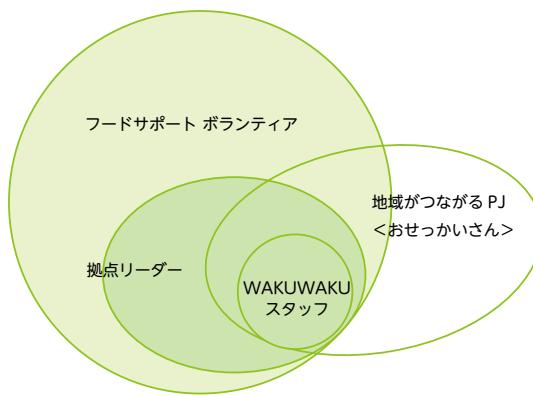
活動の定期開催や「としま子ども団」の取り組みとの連動などで、役割や出番が増え、フードサポートボランティアは200人、地域がつながるプロジェクトの訪問員〈おせっかいさん〉は80人になるなど、地域活動に参加する人のすそ野が大きく広がりました。

モノを受け取る側だったシングルマザーたちも出番を得て活動に参加し〈おせっかいさん〉になりました。そして、ボランティア参加を呼びかけ、現場のコーディネートで力を発揮した拠点リーダーは6人になりました。

「これから活動の核になるリーダーや〈おせっかいさん〉がもっと増えてほしい。地域づくりの主体は地域の人たちなので、その人たちがしたいことを実現できるよう応援することが、いま必要なのではないか」と、WAKUWAKU代表・栗林は語ります。

また、少数のリーダーに負担が集中しないよう、入れ替わりながら持続可能な活動していく方法の模索も課題になっています。

◇ボランティア・リーダー・スタッフの重なり



行政・企業とともに

地域で起こっている課題を行政とも共有し、地域の担い手にできること、行政に担つてほしい役割を示しながら有意義な連携の形を構築していきました。

また、企業がもつリソースをうまく活用した関わり方をデザインし、企業の「やりたい」を応援できたことで、地元企業からの支援の輪が広がりました。

課題が生む、地域共生インフラ

子どもとその家庭の困り感を放っておかない姿勢によって、常に暮らしの課題を把握するアンテナが作動しています。それにより、出番づくり、新たな試みが次々と生まれてくるのです。

こうして生み出された地域共生のインフラが生き続けるかぎり、地域づくりは前進していくことでしょう。

自治体条例につなげたい「子どもの貧困対策」

フードサポートのきっかけになったアンケート企画は、「子どもの貧困対策モデル条例案」作成につながりました。

「ひとり親家庭にアンケートをとり、謝礼にお米を渡そう。ヒアリングするなかで困ったときに相談してもらえる信頼関係をつくりたい」——そんな WAKUWAKU の思いを「東京パブリック法律事務所」の弁護士谷口太規さんに話したところ、日弁連法務研究財団のプロジェクトとつながったのです。そこから「子どもの貧困対策推進モデル条例案」の検討がはじまりました。

調査の内容を研究班の弁護士のみなさんと検討し、WAKUWAKU とつながりのあるひとり親 20 人にヒアリングを行い、モデル条例案に反映されました。

2016 年 7 月、「モデル条例案から考える、地域で進める子どもの貧困対策セミナー」が開催され、調査の結果を発表。180 名ほどの参加者と子どもの貧困を考える機会となりました。

「地域で活動していても、自治体が動かない」と、全体としての取り組みはなかなか進まない。条例をつくれば自治体主導で推進できる」と、このとき学びました。すぐに当時の区長に検討案を見せ、「ぜひ豊島区で条例を!」と直訴しましたが、残念ながら実現していません。

2023 年 4 月には、こども家庭庁が発足しました。そして、2024 年 6 月「子どもの貧困対策法」は、法律名に「子どもの貧困の解消」が明記されるなど大幅に改正されました。

今後、子どもが権利を侵害されることなく育つ地域づくりが一層重要になると思います。

(栗林)

おわりに

2020年3月から手探りではじめた「としまフードサポートプロジェクト」は、毎月1度、拠点に集まり活動をつくった仲間、食材や資金提供してくださったみなさま、ともに仕組みを開発し運営してくれたWAKUWAKUスタッフの力がつながることで継続できたプロジェクトでした。

みなでつくるこの活動は、WAKUWAKU感をもって取り組めて、うれしいこともありましたが、酷暑や極寒の日の活動や、重労働の後片付けなど、苦労も多々ありました。それでも、毎月100名ほどの仲間とともに500世帯前後の親子に米や食料を「手渡す」活動を継続できたのは、得難い体験でした。

ここまで活動を継続できたエネルギーはどこからきていたのかを考えてみました。一つは、みんなと活動したからこそ気力を維持できたのだと思います。もう一つは、お米を受け取りに来る親子の笑顔に会い、それが自らの幸せとして「やってよかった」と感じられたからだと思います。

この活動に参加した親子もカウントすると、毎月1000人以上的人が「じぶんたちのまちを、じぶんたちでよくするために」を5年間にわたり約100回交流したことになります。そして、多様な人たちがネットワークやメールでつながりました。突き詰めると、このプロジェクトの真の価値は〈おせっかいな活動〉に1000人の人が関わったことなのではないでしょうか。

プロジェクトは終わりましたが、携わったメンバーが、まちの課題を仲間と共有し、次の活動をつくろうとしています。

WAKUWAKUは、すべての子どもたちが大切にされて成長する地域を目指し、地域をよりよく変えていきたい。「できることはなんでもやろう！ みんなでやろう！」そんな団体であり続けたいと気持ちを新たにしています。

「おなかいっぱいプロジェクト」が立ち上がる2017年、同志であり、目白聖公会の拠点を盛り上げてくださった田中茂朗さんが2024年12月9日に天に召されました。豊島区にフードバンクをつくることが夢だった田中さんでしたが、晩年は膝の激痛のためフードバンク勉強会を立ち上げることが叶いませんでした。田中さんの「やりたい！」のバトンを引きつぎ、多くの同志とともにその夢に向かって進みたいと思います。

田中さん、これからも私たちを見守っていてください。

認定特定非営利活動法人
豊島子どもWAKUWAKUネットワーク
理事長 栗林 知絵子

◇ご寄付をいただいたみなさま

株式会社アレグロ／有限会社大山／K F ケミカル株式会社／広洋産業株式会社／
一般社団法人国際スマイリスト協会／宗教法人真如苑／巣鴨聖泉キリスト教会／
第一生命保険株式会社・池袋総合支社／中央電設株式会社／
TIS 株式会社有志社員のみなさま／ティーカップの会／株式会社東京スター銀行／
株式会社東京プロカラー／日本労働組合総連合会・東京都連合会／
ハマ冷機工業株式会社／フィデリティ証券株式会社／フィデリティ投信株式会社／
社会福祉法人フロンティア／株式会社ブルーブラックカンパニー／
社会福祉法人豊芯会・地域生活支援センターこかげ／明治安田生命保険相互会社・池袋支社／
游佐企画／立教池袋中学校・高等学校／立正佼成会豊島教会・一食地域貢献プロジェクト／
りんくうゲート株式会社／ロイヤル商事株式会社／株式会社ローヤルエンジニアリング

*掲載許可をいただいた法人さまのみ掲載しました。そのほか多くの個人の方からご支援いただきました。
厚くお礼申し上げます。

*資料編 もくじ

◆ 「としまフードサポートプロジェクト」 WAKUWAKU コロナ禍での取り組み 2020-24	36
①年表 ②フードサポート利用世帯数 ③開催拠点 ④収支 ⑤収支年次推移 ⑥利用世帯の「困りごと」⑦寄せられた声	
◆ フードサポート関連助成金・補助金一覧	41
◆ 関連資料一覧	42
◆ WAKUWAKU ボランティア・ガイドライン	43

◆「としまフードサポートプロジェクト」WAKUWAKU コロナ禍での取り組み(2020~24)

①年表

◎は豊島区委託事業・官民連携協働の取り組み

事象	年	月	WAKUWAKUの取り組み
コロナ中国武漢市で感染者を確認	2019	12	
日本で第一感染者を確認		1	
全国規模のイベントの中止 小中学校の春休みまでの臨時休校		2	<ul style="list-style-type: none"> 「としまフードサポートプロジェクト」立ち上げ 214世帯へのアンケート実施(回答96世帯) 3か所の子ども食堂会食中止
WHOが「パンデミック」認定 センバツ高校野球中止決定 東京五輪1年程度の延期決定 小池都知事が週末外出自粛を要請 国内1日あたり感染者200人突破		3	<ul style="list-style-type: none"> フードサポート開催 3/14,3/15 (218世帯) 3/28,3/29 (206世帯) お困りごと収集開始
世界感染者数100万人突破 緊急事態宣言 国内感染者1万人突破		4	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍緊急支援として、毎月第3土日にフードサポートを開催することに 学習支援対面休止、個別にオンラインでボランティアとマッチング開始
緊急事態宣言全面解除		5	<ul style="list-style-type: none"> 外国ルーツの子どもたちのオンライン居場所開始(WAKUWAKU×ルーツ) 「としまランチサポートプロジェクト」開催。 「炭焼道楽」焼肉弁当など配布(5/7~6/30)
都知事東京アラート発令		6	・「WAKUWAKUすまいサポート」開始(東京都居住支援法人認可)
GoToトラベル一部スタート		7	・オンライン授業へ対応するためパソコンとルーターの無料貸与
沖縄県独自の緊急事態宣言を発令		8	<p>◎第1回「ライス！ナイス！プロジェクト」8/30 (171世帯) 区民ひろばでの会場利用がはじまる</p> <ul style="list-style-type: none"> シングルマザーの雇用をはじめる 業務用大型冷蔵庫設置
安倍総理辞任表明 総裁に菅氏決定 GoToトラベル東京スタート		9	<p>◎第2回「ライス！ナイス！プロジェクト」 9/19 (213世帯)、9/20 (281世帯) その他87世帯</p> <ul style="list-style-type: none"> 「椎名町子ども食堂」にてお弁当配布開始
GoToイート開始		10	<ul style="list-style-type: none"> 毎月土日開催のフードサポート利用者が300人を超える 駐車場に間仕切りゲート設置
ファイザー、モデルナワクチン発表 インドで変異株(デルタ株)検出		11	<p>◎第3回「ライス！ナイス！プロジェクト」11/19 ◎第1期「地域がつながるプロジェクト」(11月~2月)開始。訪問員75名</p>
世界でワクチン接種始まる		12	<p>◎第4回「ライス！ナイス！プロジェクト」 12/5,12/6のべ685世帯</p>
緊急事態宣言 世界感染者が1億人超える	2020	1	<ul style="list-style-type: none"> 毎月土日開催のフードサポート利用者が500人を超える 増える利用者管理のため、CRMを導入。事務局強化に取り組む 認定NPO取得へ向けて準備開始
コロナワクチン接種開始		2	・大円卓会議開催
緊急事態宣言全面解除		3	・2020年度フードサポート配布数のべ3,201世帯に
緊急事態宣言 まん延防止等重点措置 世界の死者累計300万人超える 国内の高齢者ワクチン接種開始		4	<ul style="list-style-type: none"> 地域リーダーを育てるための取り組み「フードサポート振り返りMTG」開催 13拠点で「ファミマフードドライブ」開始 小円卓会議開催
アメリカ、日本に「渡航中止の勧告」		5	・都営住宅応募作成会開始(以降毎年5回)
緊急事態宣言解除		6	・食材用ガレージを借りる
世界の死者数累計400万人超える 緊急事態宣言 東京オリンピック無観客開催 国内でデルタ株流行		7	<p>◎第2期「地域がつながるプロジェクト」(7月~1月)</p> <ul style="list-style-type: none"> シングルマザーのおしゃべり会「SDGsカフェ」(以降毎月) 小円卓会議
世界の感染者累計2億人を超える		8	・大円卓会議開催
緊急事態宣言、まん延防止措置解除		9	・中期ビジョン策定委員会発足
菅内閣総辞職、岸田内閣発足		10	・東京ボランティア・市民活動センターの夏のリモート・ボランティアに参加 2021~はなれていても、つながれる~
変異株(オミクロン株)検出		11	・中期ビジョンワークショップ
都内で初めてオミクロン株感染者確認 ワクチン接種証明アプリ運用開始 重症化を防ぐ服薬モニターリピート承認 東京都PCR検査無料化実施 欧米で新規感染者過去最多		12	<p>◎第5回「ライス！ナイス！プロジェクト」12/12,12/18,12/19 703世帯</p> <ul style="list-style-type: none"> シングルマザー無料パソコン教室開催(12月~3月毎週) 小円卓会議開催

事象	年 月	WAKUWAKUの取り組み
まん延防止等重点措置	1	・「認定NPO法人」取得
北京冬期オリンピック開催	2 第6波	◎第6回「ライス！ナイス！プロジェクト」2/19,2/20,2/27のべ735世帯 ・「お店のこども食堂〈みせしょくチケット〉」開催
まん延防止等重点措置解除	3	・2021年度フードサポート配布数のべ5,011世帯に
スイス、入国制限措置を撤廃	4	・WAKUWAKUしごとサポート開始（無料職業紹介所認可） ・配布ボランティア（おせっかえる）開始
スリランカ、マスク着用義務を撤廃	5	・中期ビジョン発表
ロシア、マスク着用義務などを撤廃	6	・プラットホームの計画（トヨタ財団）
東京、発熱相談回線を最大700に増設 アルゼンチン、入国規制を全廃	7	
「Withコロナに向けた考え方」を決定	8 第7波	◎第3期「地域がつながるプロジェクト」（8月～1月） ・餃子の王将弁当配布 8/1～8/31 延べ432世帯へ ・セーフガーディング規範の作成
日韓間の旅客船運行再開	9	・シンポジウム「子どもを通してつながるまちに」
WHO、欧州ECDC、欧州委員会が、 RSウイルス・インフルエンザ・新型 コロナの同時流行を警戒する共同声明	10	
ロシア極東～中国間のバス往来再開	11	・就労体験プログラム（2024年1月まで）16名のシングルマザーの就労支援
シンガポール水際対策を全廃	12 第8波	◎第7回「ライス！ナイス！プロジェクト」12/17,12/18,12/25 454世帯 ・「おせっかえる活動」開始 ・「としまこども団」子ども服マーケット開催
マスク着用が任意に	1	
WHO国際的に懸念緊急事態宣言終了	2	◎第8回「ライス！ナイス！プロジェクト」 2/18,2/19,2/26 501世帯 ・WAKUWAKUまつり ・「お店のこども食堂〈みせしょくチケット〉」2回目開催
新型コロナウイルスが「5類」へ移行	3	・2022年度フードサポート配布数のべ5,237世帯に
5 第9波	4	・フードサポート毎月開催継続決定
新型コロナウイルスが「5類」へ移行	5	・中学校内カフェ「にしまるーむ」誕生 ・「ほんちよこ食堂」会食再開
	6 第9波	・事務局移転
	7	◎第4期「地域がつながるプロジェクト」（8月～1月）
	8	
	9	
	10	・「ボランティアガイドライン」の作成 ・区役所にて「おせっかいさん」募集のポスター掲示
	11	
	12	・フードサポート2拠点開催 利用者アンケートの実施
	1	
	2	
	2024 3	・フードサポート毎月開催終了 2023年度配布数のべ5,868世帯 ・「おせっかいさん大集合」交流会開催 ・「おせっかえる活動」報告会開催 ・「お店のこども食堂〈みせしょくチケット〉」3回目開催

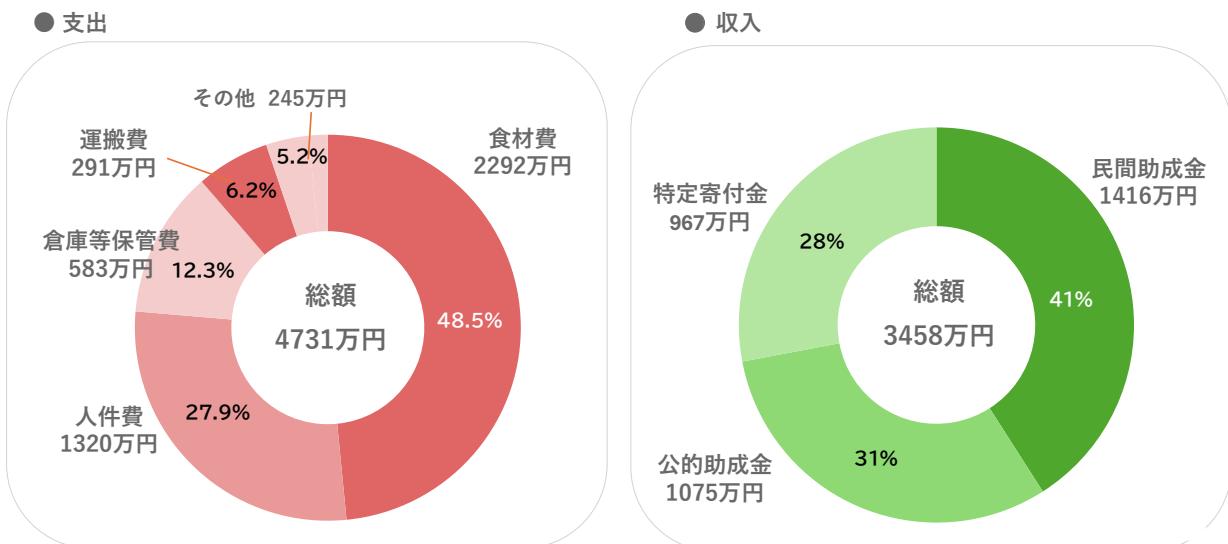
②フードサポート利用世帯数



③開催拠点〈37か所〉

としまセンタースクエア	池袋ほんちょうの郷	区民ひろば椎名町	区民ひろば西巣鴨第一
目白聖公会	区民ひろば南大塚	区民ひろば仰高	区民ひろば豊成
巣鴨ときわ教会	区民ひろば駒込	区民ひろば南池袋	区民ひろば朋有
真性寺	区民ひろば高南第2	区民ひろば高松	区民ひろば上池袋
池袋御嶽神社	区民ひろば長崎	区民ひろばさくら第二	区民ひろば西池袋
金剛院	区民ひろば池袋本町	区民ひろば富士見台	豊島区役所車止め
風かおる里	区民ひろば池袋	区民ひろば千早	豊島清掃事務所会議室
良品計画本社	区民ひろば自白	区民ひろば要町	東部障害支援センター
高三会館	区民ひろば朝日	区民ひろば清和第一	長崎健康相談所駐輪場
			無印良品サンシャインシティアルバ前

④収支〈全期間〉

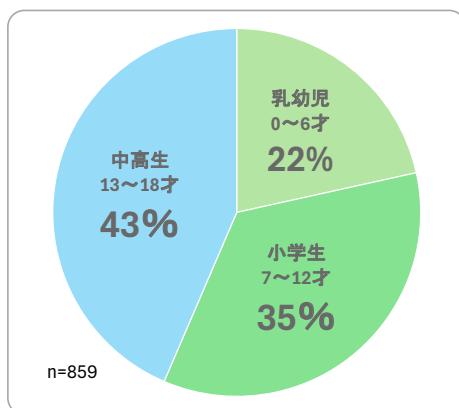


⑤収支年次推移

	2019	2020	2021	2022	2023	合計
【収入】助成金・特定寄附	1,050,000	12,335,100	3,550,000	10,806,056	6,840,251	34,581,407
【支出】	988,583	11,071,395	11,904,782	12,917,325	10,427,636	47,309,722
食材費	436,163	5,069,294	7,076,296	4,611,028	5,729,199	22,921,980
人件費	313,500	2,131,240	2,813,600	5,841,760	2,098,066	13,198,166
倉庫等保管費	0	2,190,000	929,333	905,500	1,802,490	5,827,323
運搬車両費	104,286	1,308,968	551,021	571,182	379,359	2,914,816
その他経費	134,635	371,893	534,532	987,855	418,522	2,447,437
【差引収支】	61,417	1,263,705	▲8,354,782	▲2,111,269	▲3,587,385	▲12,728,315

⑥フードサポート利用世帯の「困りごと」

●利用世帯・子どもの年齢



【2022年3月フードサポート申し込み時アンケート

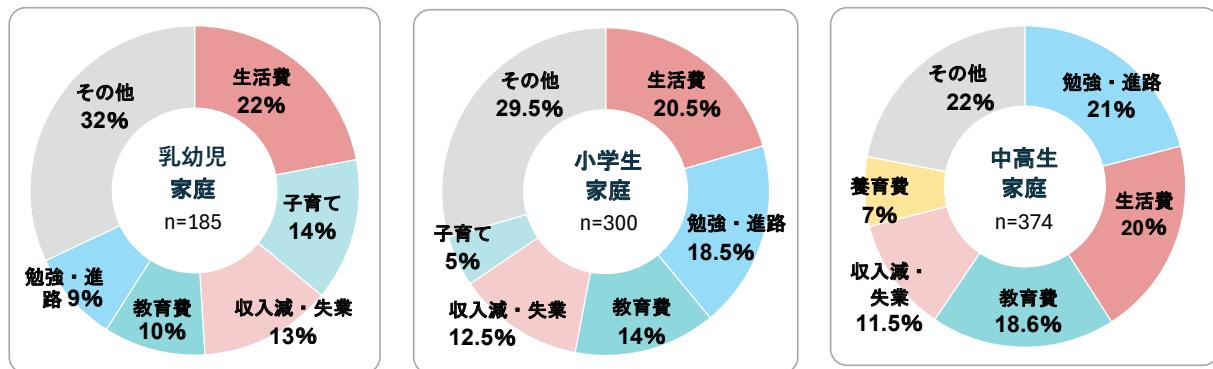
: 世帯数539 (子ども859人)

フードサポートでは毎月申し込みの際に、最近の困りごとのアンケートをとり、必要な支援につなげてきました。
利用者の96%はシングルマザー世帯でした。育児と家計を一人で担うシングルマザーの暮らしをコロナは直撃しました。

<困りごとのカテゴリー>

- 子育て ●生活費 ●収入減・失業
- 子どもの勉強・進路 ●養育費 ●転職活動
- 教育費用 ●住まい関連 ●自身と家族の体調
- 行政・学校 ●コロナ

●子どもの年齢別・困りごと



⑦寄せられた声

生活費	<ul style="list-style-type: none"> ・物価が上がる一方、子どもたちの食べる量も増え食費がかかる。 ・光熱費増、物価高で支出が増え貯蓄にまわせる金額が減り、将来の教育費など工面できるか心配になってきました…。 ・自身が病気のため子どもたちのバイト代を入れてもらっていますが、不満が多く家族関係が悪くなりました。 ・収入制限で扶養手当が打ち切られてしまった。でも手取りはたいして上がってなくて困っています。 ・女家族なのでトイレットペーパー、生理ナプキン、シャンプー、リンスなどの日用品が早く減って困っています。 ・生活費をカードで賄っており、借金が増えてきている。
収入減・失業	<ul style="list-style-type: none"> ・休職中です。体の不調あり、仕事ができず、今後が心配です。 ・娘が風邪や発熱したとき会社を休み収入が減り、自分もうつったら娘を自分だけでみなきやならなくて、体力的にもすごく辛いです。 ・飲食業の社員をしていましたが、コロナで解雇になりました。 ・サービス業で働いているため、コロナ感染すると出社できなくなり、その間の収入がなくなる不安でいっぱいです。
就職活動	<ul style="list-style-type: none"> ・体力がなくなってるのに 力仕事で、転職したいけれどパソコンとかの技術がないし、資格もないので 辛いです。 ・在宅ワークできるところに転職したくハローワークに通っているが、なかなかいい条件の職場が見つからない。 ・転職活動、子どもの進路、働きながらで全く考えられません。ゆっくり考える時間がほしいです。
住まい	<ul style="list-style-type: none"> ・引っ越ししたいがなかなか審査が通らない。 ・生活保護を受給しているのですが引越しを認めてくれません。 ・子の学区内に賃貸を借りたいのですが、収入をどれだけ増やせば良いか、どんな働き方をしたら良いか、相談できるところがほしいな、と思っています。

養育費	<ul style="list-style-type: none"> 離婚の際、養育費の取り決めをしたが振込みがなく、着信拒否され連絡が取れないので困っている。 元夫が2年前に病気になり養育費を一切貰えなくなった事が、ずっと悩みです。 養育費を振り込んでもらえない。振り込んでもらえるような制度にもっと行政で力を入れてほしい。
子育て	<ul style="list-style-type: none"> 夏休み中に食事を作る機会が増えるのがとても憂鬱です。特に学童のお弁当作り。 子どもが欠席がちになり、このまま不登校になりそうで心配。体調不良か気持ち的なものか両方か、親も悩みます。 反抗期で話を聞いてくれず困っている。向き合い方がわからず、二人だけなのでついお互いにイライラしてしまう。 障害をもつ息子の反抗期、精神年齢も低いので、暴れたりの加減ができず、物を壊してしまう。
勉強・進路	<ul style="list-style-type: none"> 部活に没頭する息子の勉強。だんだん成績が下がり、進学が心配。 先生から成績が下がったと指摘されたが、宿題以外に親が対応できる事が分からず、塾に行かせる費用もない。 学校から留学のパンフレットを持ち帰り行きたいと言う。周りの子も結構行っていてその影響も大きく困っています。 発達支援学級に在籍。豊島区立の中学校には支援学級がないので、進学について考えなければならないのが悩み。
教育費用	<ul style="list-style-type: none"> これから大学入試に向けてだんだんお金がかかるようになるのが非常に不安です。 塾の費用がこんなにかかるのかとびっくりしています。豊島区チャレンジ支援もありますが、貯金があると無理だとか。 本人がやりたいという習い事をさせてあげたいが、費用面が悩み。 イラストレーターになるため液晶タブレットがほしいと言われるが、高額で困っている。夢は応援したい……。
行政・学校	<ul style="list-style-type: none"> ひとり親世帯ですが、収入制限により児童扶養手当など行政からの支援が一切ありません。 自分の体調が悪い時の息子の預け先がない。行政が関与するサービスは、事前申請が必要。体調は予定して悪くならない。 子どもが学校に行けなくなった時、面談し初めて理由がわかる。事前に何も教えてくれない学校側の対応に悩んでいます。 息子が不登校ぎみで、スクールカウンセラーと面談した際、ひとり親だから家庭環境的に仕方ないと言わされたこと。
自分・家族の体調	<ul style="list-style-type: none"> 食費節約で栄養バランスが悪く体調を崩しやすいです。 収入を増やすためフルタイム勤務に戻したもの、家事育児に使える時間が減り、親子で体調を崩すこと多くなったように感じます。 習い事を始めさせたものの、休みの日も早起き・送り迎え等が必要で、体力的に限界。親の私が体調を崩してしまっています。 身体が非常に疲れており、病院にも通っていますが、良くなる気配が全くなく、悪化しています。 体調が悪くても働かないと生活ができない。プレッシャーに押し潰されそうです。 同居の母が入院しています。子育てと介護……。入院費用が心配です。

寄せられたお礼メッセージ *アンケートフォームよりお礼のメッセージを多数いただきました。
<ul style="list-style-type: none"> 毎月お米をいただけたことがあります！本当によく食べるので……苦笑 チェックを入れると、いつも丁寧に気持ちに寄り添ってくださる内容のメールを送って下さり、感謝しています。 解決することばかりが重要ではなく、誰かが応援してくれているということがありがたく、心が温かくなる気がします。 お米だけでも助かるのに、日用品まで頂きました。日用品も使用頻度が高く本当に助かります。 お米の方が腹持ちもいいので、よく朝ご飯にも食べさせています。納豆ご飯がいい！と喜んで食べてくれます^^ この先どうなるのか凄く心配ですがフードサポートで元気を頂いております。本当にいつもありがとうございます。 どんどん物価が上がって苦しい中、本当に助かっております。感謝しかありません。ありがとうございます。 WAKUWAKUさんや、子ども食堂のスタッフさんに見守られ子ども達が元気に生活できているのでとても感謝しています。 先日はこちらの記述に対して、メール頂きありがとうございました。こういったサポートの存在がとても心強いです。 ボランティアの皆様がいつも笑顔で明るく、親身に話を聞いてくださり、月一回お会いできるのが楽しみです。 コロナ禍で離婚成立した私には心強かったです。みなさまの支えに感謝します。何かあったら相談できるお守りのような存在です。

◆フードサポート関連助成金・補助金一覧

		(円)
2020年度		
公財)パブリックリソース財団	／ゴールドマン・サックス緊急子ども支援基金	2,000,000
福)中央共同募金会	／赤い羽根新型コロナ感染下の福祉活動応援全国キャンペーン・フードバンク活動等応援成	1,000,000
公財)ウェスレー財団	／新型コロナウイルス感染拡大による特別活動	615,000
豊島区	／フードパントリー設置事業	2,000,000
福)中央共同募金会	／赤い羽根新型コロナ感染下の福祉活動応援全国キャンペーン・フードバンク活動等応援成	1,000,000
公財)公益推進協会	／「こどもオボチュニティーズクラブ」基金・コロナ緊急フードサポート緊急支援金	100,000
2021年度		
福)中央共同募金会	／赤い羽根全国キャンペーン・居場所を失った人への緊急活動応援成（第3回）	1,720,000
社)育樹の会	／第七期助成事業（としまフードサポートプロジェクトで申請）	1,000,000
福)中央共同募金会	／赤い羽根全国キャンペーン・フードバンク活動等応援成	480,000
福)中央共同募金会	／赤い羽根全国キャンペーン・フードバンク活動等応援成	330,000
2022年度		
福)中央共同募金会	／第3回フードバンク	240,000
農林水産省	／食品受入能力向上緊急支援事業補助金	81,165
農林水産省	／食品受入能力向上緊急支援事業補助金	464,286
公財)流通経済研究（農水省）	／フードバンク支援緊急対策事業①	259,743
公財)流通経済研究（農水省）	／フードバンク支援緊急対策事業②	1,254,386
公財)流通経済研究（農水省）	／フードバンク支援緊急対策事業③	277,116
全国フードバンク推進協議会	／令和4年度厚生労働省ひとり親家庭等の子どもの食事等支援事業	2,019,000
全国フードバンク推進協議会	／令和4年度厚生労働省ひとり親家庭等の子どもの食事等支援事業	981,000
東京都福祉保健課	／令和4年度フードパントリー緊急支援	180,000
東京都福祉保健課	／令和4年度フードパントリー緊急支援	1,860,000
豊島区	／豊島区生活困窮者支援活動緊急支援補助金	500,000
一社)こども宅食応援団	／令和4年度こども宅食事業に係る食品等の物資サポート事業	5,609,960
2023年度		
一社)こども宅食応援団	／令和5年度全国こども宅食実施団体への物資サポート事業	2,250,000
一社)こども宅食応援団	／令和5年度全国こども宅食実施団体への活動助成事業	500,000
公財)流通経済研究（農水省）	／フードバンク支援緊急対策事業補助金	496,400
東京都	／令和5年度フードパントリー緊急支援事業補助金	1,440,000
一般財団法人ニチレイMIRAlterrace財団	／食を通した居場所づくり応援プロジェクト2023	100,000
公財)流通経済研究（農水省）	／フードバンク支援緊急対策事業補助金	422,174
一社)全国食支援活動協力会	／ひとり親家庭等の子どもの食事等支援事業	425,000
東京都環境局資源循環推進部（農水省）	／東京都フードバンク活動支援事業補助金	1,014,677
豊島区	／豊島区生活困窮者支援活動緊急支援補助金	500,000
2024年度		
公財)流通経済研究（農水省）	／フードバンク支援緊急対策事業補助金	516,262
一社)こども宅食応援団	／令和6年度全国こども宅食実施団体への活動助成事業	2,538,000
東京都	／令和6年度フードパントリー緊急支援事業補助金	1,440,000
公財)流通経済研究（農水省）	／食品ロス削減緊急対策事業補助金	235,223
		35,849,392

◆関連資料一覧

- ①「としまフードサポートプロジェクト」概要
—休校による緊急食の支援



2020.02.08



- ②「としまフード＆ランチサポートプロジェクト」
—経緯と実施状況



2020.08.22



- ③「地域がつながるプロジェクト」
—誕生までの道のりと2020年度の活動の記録



2021.03.31



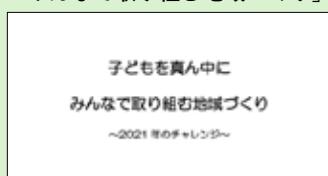
- ④「ライス！ナイス！プロジェクト」
—12月開催報告書



2021.12



- ⑤「子どもを真ん中に
みんなで取り組む地域づくり」



2022.01.31



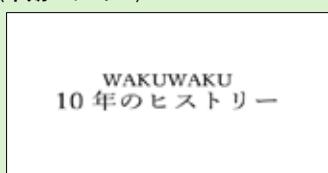
- ⑥「ライス！ナイス！プロジェクト」
—2月開催報告書



2022.02



- ⑦WAKUWAKU10年のヒストリー
(中期ビジョン)



2023.02.05



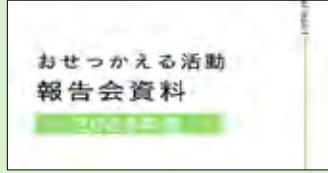
- ⑧「ライス！ナイス！プロジェクト」
—令和4年度12月・2月開催報告書



2023.03.11



- ⑨おせっかえる活動報告会資料



2023.03.31



- ⑩就労体験プログラム報告レポート



2023.06.30



- ⑪2024年度「にしまるーむ」報告会資料



2025.03.31



- ⑫WAKUWAKU通信バックナンバー



2017.12～2024.10



◆ WAKUWAKU ボランティア・ガイドライン

WAKUWAKU ボランティア・ガイドライン

利用者の方に安心してご利用いただくため、また、さまざまな方に感動してがらんち
ア活動にご参加いただくために、がらんティア活動の要は以下の「お約束」を守
つて頂きますようお願いいたします。

注意してほしいこと

1. お互いのプライバシーを守りましょう
利用者以外にも、ボランティア活動で知り合った方のプライバシーにもご配慮ください。
また、心配りを怠ってはいけません。

卷之三

ボランティア活動へ参加して頂くためには、無理をしない範囲で参加して顶くことが重要です。それよりも無理をなさないようにしてください。

卷之三

NIKAWAKUAKUの活動の目的のひとつとして、参加者同士の繋がりがあります。活動に参加していると、多くの人と知り合う機会ができ、新たな出会いを大切にしていたいときたいと考えています。

ボランティア団士の連絡先交換ご自身の判断で行なっていたい感じで構いませんが、サポートした人（利用者の方）との連絡先交換はお控えください。
※ボランティア団士以上に連絡先を交換した場合でも、本當は連絡先を交換したくはなかった、などの状況があつた場合は、遺憾なくNIKAWAKUAKUまでご相談ください。

お問い合わせは、未成年の方のボランティア参加については運営にご相談ください

子ども支援と利用者のプライバシー配慮の観点から、原則として18歳未満のボランティア活動の参加をご遠慮いただいています。お子さんをお連れにならないとボランティア活動に参加できないなどの事情がある場合は、事前に事務局までご相談ください。

壁紙で
おしゃれ

- （1）ランティア会員で許可なく、撮影（写真・動画）または録音すること、（2）法律を遵守して取った利用者及びランティアのデータを明らかに隠すこと、見聞きした情報を個人的にメモを取ることも禁止しています。

卷之三

5. 効率や営業活動、自身の健康を広める行為

個人を特定できないように内容を伏せたとしても、SNSやブログなどで発信することは、絶対に行わないください。

上記の禁止行為をされている方を見かけたら、WAKUWAKUスタッフまでお知らせください。

本影写機の撮影の範囲を広げた2スタッフの、撮影を許可されています。

111



どもWAKUWAKUネットワーク
170-0011 番島区池袋本町1-28-1-102
☎:050-5526-1229

小田川華子（おだがわ・はなこ）

大学院時代に京都で野宿者支援に参加。看過できない貧困問題が日本にもあることを知ってから貧困、住宅保障分野の調査・研究をしている。2000年代はじめにフィリピンでコミュニティ・オーガナイジングを学び帰国後、大学等にて地域づくり、市民活動のオーガナイザー育成に携わる。東京都立大学子ども・若者貧困研究センター特任研究員を経て、現在は公益社団法人ユニバーサル志縁センター事務局長。若者支援団体への中間支援を通して、親に頼れない若者の独り立ちを応援している。

食でつながる〈おせっかい〉ネットワーク フードサポート活動報告 2020-24

2025年6月25日 発行

執筆：小田川華子

編集：豊島子どもWAKUWAKUネットワーク

合同会社五十音

デザイン・DTP：open!sesame

発行：認定NPO法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク

〒171-0014

東京都豊島区池袋4丁目24番3号 武川ビル2階

TEL：050-5526-1229

E-mail：info@toshimawakuwaku.com

HP：<https://toshimawakuwaku.com/>



© 豊島子どもWAKUWAKUネットワーク 2025 Printed in Japan

*無断コピーおよび転載を禁じます。複製・転載・引用される際にはご連絡ください。

ご支援のお願い

豊島子ども WAKUWAKU ネットワークは、2022年1月に認定NPO法人になりました。認定NPO法人へのご寄付は「寄付金控除」の対象になります。当団体の活動は、みなさまのご支援に支えられています。広報やご寄付などでのご支援をどうぞよろしくお願ひいたします。



◀HP・QRコードからお手続きください

寄付で支援

- 繙続的なご寄付：毎月 / 1年
- 都度のご寄付：いつでも、ご寄付いただけます

お振込み

ゆうちょ銀行
記号：10100 番号：56396291

*他行よりお振込みの場合
店名 ○一八 (018) (読み ゼロイチハチ)
普通 5639629
加入者名 トクヒ) トシマコドモワクワクネットワーク
*直接お振込みいただいた場合は、お手数ですが、お名前、電話番号、ご住所をメールにてお知らせください。

クレジットカード

各種クレジットカードをご利用いただけます

郵便振替

郵便振替：00170-5-728808
加入者名：豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク

賛助会員

年会費：賛助会員 1口 500円
(クレジットカードのご利用はシステムの都合上、
2口 1,000円~となります)

物の寄付で支援

- ブックオフコーポレーション株式会社「キモチ」と：買取金額が全額寄付になります。
- 「Amazon ほしいものリスト」から
- 子ども食堂向けの食材や、無料学習支援向け教材などございましたら、ご連絡ください。

メルマガ登録

● 月1回発行し活動を紹介しています。
ぜひご登録ください。



フードサポート活動報告「食でつながる〈おせっかい〉ネットワーク」をお読みいただきありがとうございます。

長期にわたり多くのご家庭にフードサポートを継続できたのは、みなさまのご協力とご寄付のおかげです。あらためて感謝申し上げます。

これからも、誰ひとり取りこぼされることなく、子どもが大切にされ、笑顔で成長するまちをつくるため〈おせっかいの輪〉を広げてまいります。

そのためには、WAKUWAKU の活動を支えていただく財政支援が必要です。
ぜひ、ご寄付をお願いします。